

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	2023年1月4日提出
【発行者名】	大和アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 小松 幹太
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【事務連絡者氏名】	西脇 保宏 連絡場所 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【電話番号】	03-5555-3431
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	四国アライアンス 地域創生ファンド（年1回決算型）
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】	10兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

第一部【証券情報】

(1)【ファンドの名称】

四国アライアンス 地域創生ファンド（年1回決算型）（愛称：四国の未来（年1回））

(2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託（契約型）の受益権です。

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付もありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

(3)【発行（売出）価額の総額】

10兆円を上限とします。

(4)【発行（売出）価格】

1万口当たり取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

基準価額は、販売会社または下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

(5)【申込手数料】

販売会社におけるお買付時の申込手数料の料率の上限は、3.3%（税抜3.0%）となっています。

具体的な手数料の料率等については、販売会社にお問合わせ下さい。

申込手数料には、消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）が課されます。

「分配金再投資コース」の収益分配金の再投資の際には、申込手数料はかかりません。

(6)【申込単位】

販売会社にお問合わせ下さい。

(7)【申込期間】

2023年1月5日から2023年7月3日まで（継続申込期間）

（終了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。）

(8)【申込取扱場所】

下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

(9)【払込期日】

受益権の取得申込者は、販売会社が定める期日（くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。）までに、取得申込代金（取得申込金額、申込手数料および申込手数料に対する消費税等に相当する金額の合計額をいいます。以下同じ。）を販売会社において支払うものとします。

販売会社は、各取得申込受付日における取得申込金額の総額に相当する金額を、追加信託が行なわれる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払込みます。

(10)【払込取扱場所】

受益権の取得申込者は、取得申込代金を、申込取扱場所において支払うものとします。申込取扱場所については、前(8)をご参照下さい。

(11)【振替機関に関する事項】

振替機関は下記のとおりです。

株式会社 証券保管振替機構

(12)【その他】

該当事項はありません。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは、わが国の株式および海外の債券に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。

一般社団法人投資信託協会による商品分類・属性区分は、次のとおりです。

商品分類表

単位型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信	内外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式				
一般	年1回	グローバル (含む日本)		
大型株				
中小型株				
債券	年2回	日本	ファミリー ファンド	あり ()
一般	年4回	北米		
公債		欧州		
社債	年6回 (隔月)	アジア		
その他債券 ()		オセアニア		
不動産投信	年12回 (毎月)	中南米	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
その他資産 (投資信託証券 (資産複合 (資産配分固定型 (株式、債券))	日々	アフリカ		
資産複合 ()	その他 ()	中近東 (中東)		
資産配分固定型		エマージング		
資産配分変更型				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

(注1) 商品分類の定義

単位型・追加型	単位型	当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行なわれないファンド
	追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行なわれ従来の信託財産とともに運用されるファンド
投資対象地域	国内	目論見書または投資信託約款（以下「目論見書等」といいます。）において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	海外	目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	内外	目論見書等において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるもの
投資対象資産	株式	目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるもの
	債券	目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるもの
	不動産投信（リート）	目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるもの
	その他資産	目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券、不動産投信（リート）以外の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	資産複合	目論見書等において、株式、債券、不動産投信（リート）およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるもの
独立区分	MMF（マネー・マネージメント・ファンド）	「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMF
	MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRF
	ETF	投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号および第2号に規定する証券投資信託ならびに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託
補足分類	インデックス型	目論見書等において、各種指数に連動する運用成果をめざす旨の記載があるもの
	特殊型	目論見書等において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるもの

(注2) 属性区分の定義

投資対象 資産	株式	一般	大型株、中小型株属性にあてはまらないすべてのもの
		大型株	目論見書等において、主として大型株に投資する旨の記載があるもの
		中小型株	目論見書等において、主として中小型株に投資する旨の記載があるもの
	債券	一般	公債、社債、その他債券属性にあてはまらないすべてのもの
		公債	目論見書等において、日本国または各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。）に主として投資する旨の記載があるもの
		社債	目論見書等において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるもの
		その他債券	目論見書等において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるもの
		格付等クレジットによる属性	目論見書等において、特にクレジットに対して明確な記載があるもの
	不動産投信	目論見書等において、主として不動産投信（リート）に投資する旨の記載があるもの	
	その他資産	目論見書等において、主として株式、債券、不動産投信（リート）以外に投資する旨の記載があるもの	
	資産複合	目論見書等において、複数資産を投資対象とする旨の記載があるもの	
	資産複合 資産配 分固定型	目論見書等において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるもの	
	資産複合 資産配 分変更型	目論見書等において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないもの	
決算頻度	年1回	目論見書等において、年1回決算する旨の記載があるもの	
	年2回	目論見書等において、年2回決算する旨の記載があるもの	
	年4回	目論見書等において、年4回決算する旨の記載があるもの	
	年6回（隔月）	目論見書等において、年6回決算する旨の記載があるもの	
	年12回（毎月）	目論見書等において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるもの	
	日々	目論見書等において、日々決算する旨の記載があるもの	
	その他	上記属性にあてはまらないすべてのもの	

投資対象地域	グローバル	目論見書等において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	日本	目論見書等において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	北米	目論見書等において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	欧州	目論見書等において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	アジア	目論見書等において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	オセアニア	目論見書等において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	中南米	目論見書等において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	アフリカ	目論見書等において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	中近東（中東）	目論見書等において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの
	エマージング	目論見書等において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるもの
投資形態	ファミリーファンド	目論見書等において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するもの
	ファンド・オブ・ファンズ	「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズ
為替ヘッジ	あり	目論見書等において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行なう旨の記載があるもの
	なし	目論見書等において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行なう旨の記載がないもの
対象インデックス	日経225	目論見書等において、日経225に連動する運用成果をめざす旨の記載があるもの
	TOPIX	目論見書等において、TOPIXに連動する運用成果をめざす旨の記載があるもの
	その他の指数	目論見書等において、上記以外の指数に連動する運用成果をめざす旨の記載があるもの
特殊型	ブル・ベア型	目論見書等において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行なうとともに各種指数・資産等への連動もしくは逆連動（一定倍の連動もしくは逆連動を含みます。）をめざす旨の記載があるもの
	条件付運用型	目論見書等において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるもの
	ロング・ショート型 / 絶対収益追求型	目論見書等において、ロング・ショート戦略により収益の追求をめざす旨もしくは特定の市場に左右されにくい収益の追求をめざす旨の記載があるもの
	その他型	目論見書等において、特殊型のうち上記に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるもの

商品分類・属性区分の定義について、くわしくは、一般社団法人投資信託協会のホームページ(アドレス<http://www.toushin.or.jp/>)をご参照下さい。

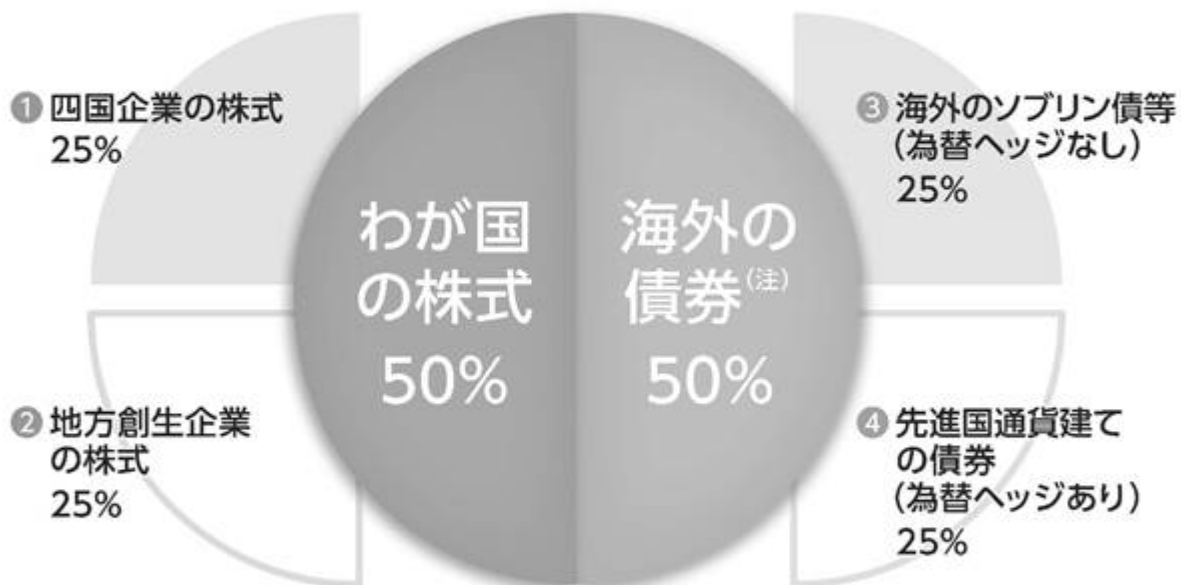
< 信託金の限度額 >

- ・委託会社は、受託会社と合意のうえ、1,000億円を限度として信託金を追加することができます。
- ・委託会社は、受託会社と合意のうえ、限度額を変更することができます。

< ファンドの特色 >

1 四国企業および地方創生企業の株式ならびに海外の債券に投資します。

- 各資産について、下記の組入比率を目処に投資します。



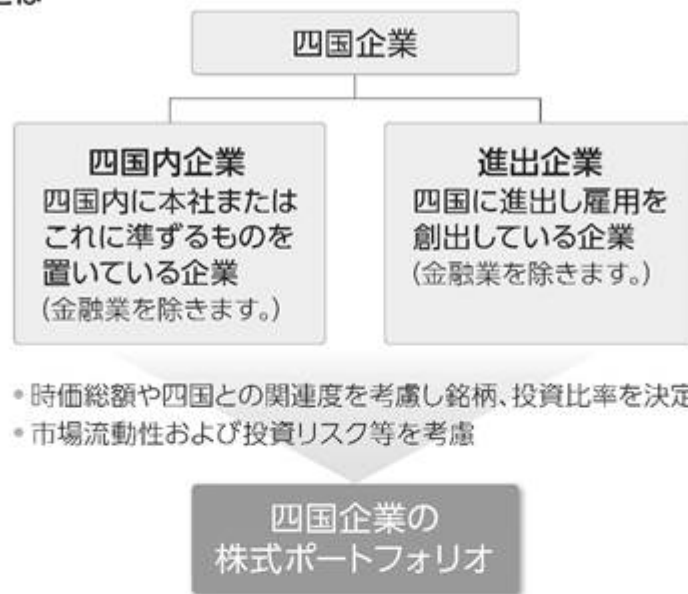
(注) ④先進国通貨建ての債券においては、円建ての債券に投資する場合があります。

※上記はイメージであり、実際の組入比率とは異なります。

[各資産の投資方針]

① 四国企業の株式

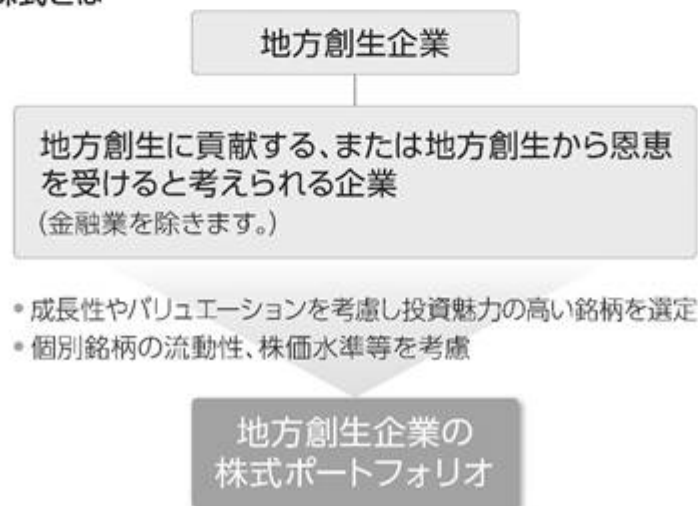
四国企業の株式とは



※「四国企業の株式」部分の運用は四国応援マザーファンドを通じて行ないます。当部分の運用について、くわしくは、「投資対象ファンドの概要 四国応援マザーファンド」をご参照下さい。

② 地方創生企業の株式

地方創生企業の株式とは



※「地方創生企業の株式」部分の運用は地方創生ファンド(FOFs用)(適格機関投資家専用)を通じて行ないます。当部分の運用について、くわしくは、「投資対象ファンドの概要 地方創生ファンド(FOFs用)(適格機関投資家専用)」をご参照下さい。

③ 海外のソブリン債等(為替ヘッジなし)

「海外のソブリン債等(為替ヘッジなし)」部分の運用にあたっては、海外のソブリン債等(国債、政府機関債、中央政府により発行・保証された債券、国際機関債など)に投資します。

- ドル通貨圏、欧州通貨圏の2通貨圏への投資割合を50%程度ずつとすることを基本とします。(ドル通貨圏内では米ドルへの投資割合を50%程度、欧州通貨圏内ではユーロへの投資割合を50%程度とすることを基本とします。)
- 国債の格付けは、取得時においてA格相当以上(ムーディーズでA3以上またはS&PでA-以上)、国債以外の格付けは、取得時においてAA格相当以上(ムーディーズでAa3以上またはS&PでAA-以上)とすることを基本とします。
- ポートフォリオの修正デュレーションは5(年)程度から10(年)程度の範囲を基本とします。
- 金利リスク調整のため、ドル通貨圏と欧州通貨圏の通貨建ての国債先物取引等を利用することがあります。

為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは行ないません。

※「海外のソブリン債等(為替ヘッジなし)」部分の運用はダイワ・外債ソブリン・マザーファンドを通じて行ないます。当部分の運用について、くわしくは、「投資対象ファンドの概要 ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド」をご参照下さい。

④ 先進国通貨建ての債券(為替ヘッジあり)

「先進国通貨建ての債券(為替ヘッジあり)」部分の運用にあたっては、先進国通貨建て債券に投資します。

- 先進国通貨とはFTSE世界国債インデックスの構成通貨をいいます。
- 組入れる債券(国債を除きます。)の格付けは、取得時においてBBB格相当以上(R&I、JCR、S&P、フィッチのいずれかでBBB-以上またはムーディーズでBaa3以上)とします。
- 運用の効率化を図るために、債券先物取引等を利用することがあります。

為替変動リスクを低減するための為替ヘッジを行ないます。

※「先進国通貨建ての債券(為替ヘッジあり)」部分の運用はネオ・ヘッジ付債券マザーファンドを通じて行ないます。当部分の運用について、くわしくは、「投資対象ファンドの概要 ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド」をご参照下さい。

FTSE世界国債インデックスについて

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

【ご参考】

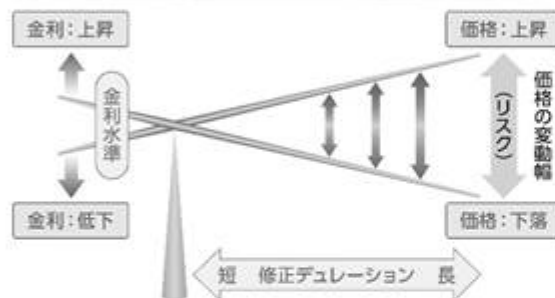
債券の格付けについて

信用度	ムーディーズの場合	R&I, JCR, S&P、 フィッチの場合
高い	Aaa	AAA
	Aa { Aa1 Aa2 Aa3 }	AA { AA+ AA AA- }
	A { A1 A2 A3 }	A { A+ A A- }
	Baa { Baa1 Baa2 Baa3 }	BBB { BBB+ BBB BBB- }
	Ba	BB
	B	B
	⋮	⋮
低い		

債券の格付けとは、償還時までの債券の元本、利息の支払いの確実性に関する将来の見通しを示すもので、ムーディーズ(Moody's)、格付投資情報センター(R&I)、日本格付研究所(JCR)、S&Pグローバル・レーティング(S&P)、フィッチ・レーティングス(Fitch)などといった格付会社が各債券の格付けを行なっています。付与された格付けは、随時見直しが行なわれ、発行体の財務状況の変化などによって格上げや格下げが行なわれることがあります。

修正デュレーションについて

金利変動と修正デュレーションの関係(イメージ)



- 修正デュレーションとは、「金利が変動したときに債券価格がどのくらい変化するか」を示す指標です。
- 修正デュレーションが長いほど、金利が変動したときの債券価格の変動(ブレ幅)が大きくなります。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の4本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、四国企業の株式、地方創生企業の株式、海外のソブリン債等および先進国通貨建て債券に投資します。



※投資対象ファンドについて、くわしくは、「投資対象ファンドの概要」をご参照下さい。

- 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想される時、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、ファンドの特色1.の運用が行なわれないことがあります。



毎年4月10日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

※第1計算期間は、2018年4月10日(休業日の場合翌営業日)までとします。

[分配方針]

- ① 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とします。
- ② 原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。
ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

主な投資制限

- 株式への直接投資は、行ないません。
- 投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- 外貨建資産への直接投資は、行ないません。

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

< 投資対象ファンドの概要 >

1. 四国応援マザーファンド

基本方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式（上場予定を含みます。以下同じ。）

投資態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主として、わが国の金融商品取引所上場株式の中から、四国企業（金融業を除きます。）に投資し、信託財産の成長をめざします。 2. 四国企業とは、四国内に本社またはこれに準ずるものを置いている企業（以下「四国内企業」といいます。）、および四国に進出し雇用を創出している企業（以下「進出企業」といいます。）とします。 3. 四国企業の株式への投資のうち個々の銘柄への投資については、市場流動性および投資リスク等を考慮します。 4. 四国内企業の株式への投資については、それぞれの時価総額に応じた投資比率（上限を設ける場合があります。5.においても同じ）とすることを基本とします。 5. 進出企業の株式への投資については、時価総額と四国内従業員数など四国との関連度を考慮して銘柄選定を行ない、それぞれの時価総額に応じた比率に一定の値を乗じた投資比率で組入れを行なうことを基本とします。 6. 株式の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 7. 運用の効率化を図るため、わが国の株価指数先物取引等を利用することがあります。このため、株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。 8. 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。
信託期間	無期限（2017年7月28日当初設定）
決算日	毎年4月10日（休業日の場合翌営業日）
運用管理費用 （信託報酬）	かかりません。
委託会社	大和アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社

2. 地方創生ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用）

基本方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	地方創生マザーファンド（以下マザーファンドといいます。）の受益証券

投資態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主として、マザーファンドの受益証券を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式の中から、地方創生企業に投資し、信託財産の成長をめざします。 地方創生企業とは、地方創生に貢献する、または地方創生から恩恵を受けると考えられる企業(金融業を除きます。)とします。 2. マザーファンドの運用にあたっては、以下の方針を基本とします。 イ)地方創生企業の株式を投資候補銘柄とします。 ロ)投資候補銘柄の中から、成長性やバリュエーションを考慮し、投資魅力の高い銘柄を選定します。 ハ)個別銘柄の流動性、株価水準等を考慮し、ポートフォリオを構築します。 ニ)投資候補銘柄およびポートフォリオの組入銘柄については、適宜見直しを行いません。 3. マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 4. マザーファンドにおいて、運用の効率化を図るため、わが国の株価指数先物取引等を利用することがあります。このため、マザーファンドにおいて、株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。 5. 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。 6. 当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズのみを取得させることを目的とするものです。
マザーファンドの投資態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主として、わが国の金融商品取引所上場株式(上場予定を含みます。)の中から、地方創生企業に投資し、信託財産の成長をめざします。 地方創生企業とは、地方創生に貢献する、または地方創生から恩恵を受けると考えられる企業(金融業を除きます。)とします。 2. ポートフォリオの構築にあたっては、以下の方針を基本とします。 イ)地方創生企業の株式を投資候補銘柄とします。 ロ)投資候補銘柄の中から、成長性やバリュエーションを考慮し、投資魅力の高い銘柄を選定します。 ハ)個別銘柄の流動性、株価水準等を考慮し、ポートフォリオを構築します。 ニ)投資候補銘柄およびポートフォリオの組入銘柄については、適宜見直しを行いません。 3. 株式の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 4. 運用の効率化を図るため、わが国の株価指数先物取引等を利用することがあります。このため、株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。 5. 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。
信託期間	2027年4月8日まで(2017年7月31日当初設定)
決算日	3月、9月の各24日(休業日の場合翌営業日)

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し、年率0.583%(税抜0.53%)を乗じて得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)の他に、信託事務の諸費用、監査報酬、およびその他諸費用がかかります。
委託会社	大和アセットマネジメント株式会社
受託会社	みずほ信託銀行株式会社

3. ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド

基本方針	安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	内外の公社債等
投資態度	<p>1. 主として海外のソブリン債等(国債、政府機関債、中央政府により発行・保証された債券、国際機関債など)に投資することにより、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>2. 海外のソブリン債等への投資にあたっては、以下のような点に留意しながら運用を行なうことを基本とします。</p> <p>イ) 米ドル、カナダ・ドルおよびオーストラリア・ドル等をドル通貨圏、ユーロ、ポンド、北欧通貨および東欧通貨等を欧州通貨圏とし、2通貨圏への投資割合をそれぞれ信託財産の純資産総額の50%程度ずつとすることを基本とします。</p> <p>北欧通貨：スウェーデン・クローネ、デンマーク・クローネ、ノルウェー・クローネ</p> <p>東欧通貨：ハンガリー・フォリント、ポーランド・ズロチ、チェコ・コルナ等</p> <p>ロ) ドル通貨圏内では米ドルへの投資割合を50%程度、欧州通貨圏内ではユーロへの投資割合を50%程度とすることを基本とします(ただし、欧州通貨圏の投資対象通貨がユーロに統合される場合は、統合される通貨で実際に投資されている比率をユーロで実際に投資されている比率に加算した比率に基づいて、配分比率を見直します。)</p> <p>ハ) 国債については、取得時においてA格相当以上(ムーディーズでA3以上またはS&PでA-以上)とすることを基本とします。国債を除く投資対象の格付けは、取得時においてAA格相当以上(ムーディーズでAa3以上またはS&PでAA-以上)とすることを基本とします。</p> <p>ニ) ポートフォリオの修正デュレーションは5(年)程度から10(年)程度の範囲を基本とします。</p> <p>ホ) 金利リスク調整のため、ドル通貨圏と欧州通貨圏の通貨建ての国債先物取引等を利用することがあります。</p> <p>3. 為替については、ドル通貨圏と欧州通貨圏の通貨建資産の投資比率合計を、信託財産の純資産総額の100%に近づけることを基本とします。</p> <p>4. 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。</p>

信託期間	無期限(2005年4月26日当初設定)
決算日	4月、10月の各10日(休業日の場合翌営業日)
運用管理費用 (信託報酬)	かかりません。
委託会社	大和アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社

4. ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド

基本方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	先進国通貨建て債券
投資態度	<ol style="list-style-type: none"> 主として、先進国通貨建て債券に投資し、為替変動リスクを低減するための為替ヘッジを行なうことにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 組入れる債券(国債を除きます。)の格付けは、取得時においてBBB格相当以上(R&I、JCR、S&P、フィッチのいずれかでBBB-以上またはムーディーズでBaa3以上)とします。 当ファンドにおいて先進国通貨とはFTSE世界国債インデックスの構成通貨をいいます。 対円で為替ヘッジを行なうことを前提に、各国の長短金利の状況、信用環境、流動性等を考慮しポートフォリオを構築します。 債券の組入比率は、通常の状態では信託財産の純資産総額の80%程度以上に維持することを基本とします。 運用の効率化を図るため、債券先物取引等を利用することがあります。このため、債券の組入総額および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。また、債券先物取引等の売建玉の時価総額が債券の組入総額を超えることがあります。 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。
信託期間	無期限(2014年11月14日当初設定)
決算日	毎年6月15日(休業日の場合翌営業日)
運用管理費用 (信託報酬)	かかりません。
委託会社	大和アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社

(2) 【ファンドの沿革】

2017年7月28日

信託契約締結、当初設定、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

受益者	お申込者	
	収益分配金（注）、償還金など お申込金（ 3）	
お取扱窓口	販売会社	<p>受益権の募集・販売の取扱い等に関する委託会社との契約（ 1）に基づき、次の業務を行ないます。</p> <p>受益権の募集の取扱い</p> <p>一部解約請求に関する事務</p> <p>収益分配金、償還金、一部解約金の支払いに関する事務</p> <p style="text-align: right;">など</p>
1	収益分配金、償還金など お申込金（ 3）	
委託会社	大和アセットマネジメント株式会社	<p>当ファンドにかかる証券投資信託契約（以下「信託契約」といいます。）（ 2）の委託者であり、次の業務を行ないます。</p> <p>受益権の募集・発行</p> <p>信託財産の運用指図</p> <p>信託財産の計算</p> <p>運用報告書の作成</p> <p style="text-align: right;">など</p>
運用指図	2	損益 信託金（ 3）
受託会社	三井住友信託銀行株式会社 再信託受託会社：株式会社日本カストディ銀行	<p>信託契約（ 2）の受託者であり、次の業務を行ないます。なお、信託事務の一部につき株式会社日本カストディ銀行に委託することができます。また、外国における資産の保管は、その業務を行なうに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行なう場合があります。</p> <p>委託会社の指図に基づく信託財産の管理・処分</p> <p>信託財産の計算</p> <p style="text-align: right;">など</p>
	損益 投資	
投資対象	投資対象ファンドの受益証券 など	

（注）「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は自動的に再投資されます。

- 1：受益権の募集の取扱い、一部解約請求に関する事務、収益分配金、償還金、一部解約金の支払いに関する事務の内容等が規定されています。
- 2：「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づいて、あらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容に基づき締結されます。証券投資信託の運営に関する事項（運用方針、委託会社および受託会社の業務、受益者の権利、信託報酬、信託期間等）が規定されています。
- 3：販売会社は、各取得申込受付日における取得申込金額の総額に相当する金額を、追加信託が行なわれる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払込みます。

委託会社および受託会社は、それぞれの業務に対する報酬を信託財産から收受します。また、販売会社には、委託会社から業務に対する代行手数料が支払われます。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の4本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、四国企業の株式、地方創生企業の株式、海外のソブリン債等および先進国通貨建て債券に投資します。



< 委託会社の概況（2022年10月末日現在） >

・資本金の額 151億7,427万2,500円

・沿革

- 1959年12月12日 大和証券投資信託委託株式会社として設立
- 1960年 2月17日 「証券投資信託法」に基づく証券投資信託の委託会社の免許取得
- 1960年 4月 1日 営業開始
- 1985年11月 8日 投資助言・情報提供業務に関する兼業承認を受ける。
- 1995年 5月31日 「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づき投資顧問業の登録を受ける。
- 1995年 9月14日 「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づく投資一任契約にかかる業務の認可を受ける。
- 2007年 9月30日 「金融商品取引法」の施行に伴い、同法第29条の登録を受けたものとみなされる。
(金融商品取引業者登録番号：関東財務局長（金商）第352号)
- 2020年 4月 1日 大和アセットマネジメント株式会社に商号変更

・大株主の状況

名称	住所	所有 株式数	比率
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	株 2,608,525	% 100.00

2【投資方針】

(1)【投資方針】

主要投資対象

次の受益証券（振替受益権を含みます。以下同じ。）を主要投資対象とします。

- イ．四国応援マザーファンドの受益証券
- ロ．地方創生ファンド（F0Fs用）（適格機関投資家専用）の受益証券
- ハ．ダイワ・外債ソブリン・マザーファンドの受益証券
- ニ．ネオ・ヘッジ付債券マザーファンドの受益証券

投資態度

- 1．主として、各投資対象ファンドの受益証券を通じて、わが国の株式および海外の債券に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。
- 2．各主要投資対象ファンドの受益証券については、下記の組入比率を目処に投資を行ないます。
 - 四国応援マザーファンドの受益証券.....信託財産の純資産総額の25%
 - 地方創生ファンド（F0Fs用）（適格機関投資家専用）の受益証券
.....信託財産の純資産総額の25%
 - ダイワ・外債ソブリン・マザーファンドの受益証券.....信託財産の純資産総額の25%
 - ネオ・ヘッジ付債券マザーファンドの受益証券.....信託財産の純資産総額の25%
- 3．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<投資先ファンドについて>

投資先ファンドの選定の方針は次のとおりです。

投資先ファンドの名称	地方創生ファンド（F0Fs用）（適格機関投資家専用）
選定の方針	主として、わが国の株式の中から地方創生に貢献する、または地方創生から恩恵を受けると考えられる企業（金融業を除く。）に投資することにより信託財産の成長をめざすファンドである。

くわしくは「1 ファンドの性格（1）ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」をご参照下さい。

(2)【投資対象】

当ファンドにおいて投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

- 1．次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条に掲げるものをいいます。以下同じ。）
 - イ．有価証券
 - ロ．約束手形
 - ハ．金銭債権のうち、投資信託及び投資法人に関する法律施行規則第22条第1項第6号に掲げるもの
- 2．次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ．為替手形

委託会社は、信託金を、主として、大和アセットマネジメント株式会社を委託者とし、三井住友信託銀行株式会社を受託者として締結された次の1. から3. までに掲げる親投資信託の受益証券、次の4. に掲げる証券投資信託の受益証券（振替受益権を含みます。）、ならびに次の5. から7. までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. 四国応援マザーファンドの受益証券
2. ダイワ・外債ソブリン・マザーファンドの受益証券
3. ネオ・ヘッジ付債券マザーファンドの受益証券
4. 地方創生ファンド（F0Fs用）（適格機関投資家専用）の受益証券
5. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
6. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前5. の証券の性質を有するもの
7. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1. から前4. までの受益証券を「投資信託証券」といいます。

委託会社は、信託金を、前 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

前 の規定にかかわらず、当ファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前 に掲げる金融商品により運用することを指図することができます。

< 投資先ファンドについて >

ファンドの純資産総額の10%を超えて投資する可能性がある投資先ファンドの内容は次のとおりです。

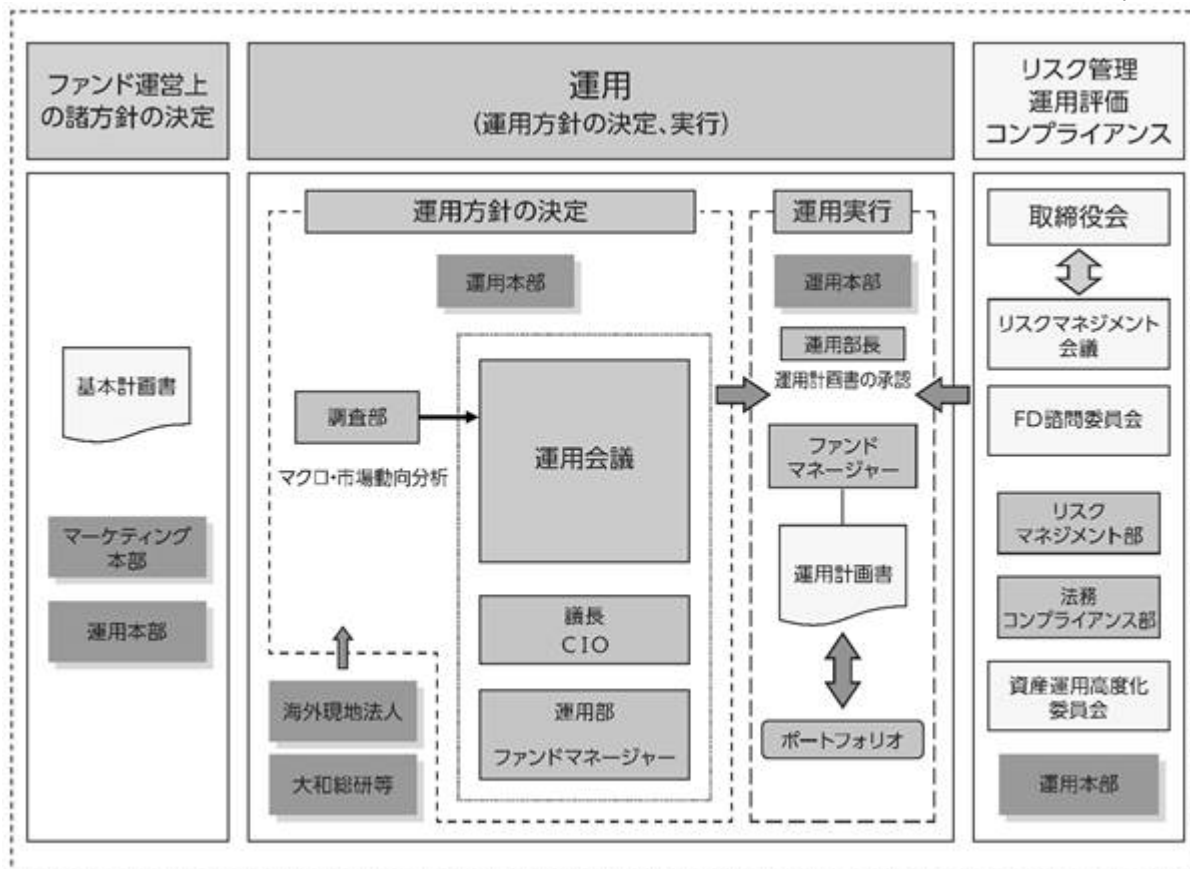
投資先ファンドの名称	地方創生ファンド（F0Fs用）（適格機関投資家専用）
運用の基本方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要な投資対象	地方創生マザーファンドの受益証券を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式の中から、地方創生企業に投資します。
委託会社の名称	大和アセットマネジメント株式会社

くわしくは「1 ファンドの性格（1）ファンドの目的及び基本的性格 < ファンドの特色 >」をご参照下さい。

(3) 【運用体制】

運用体制

ファンドの運用体制は、以下のとおりとなっています。



運用方針の決定にかかる過程

運用方針は次の過程を経て決定しております。

イ．基本計画書の策定

ファンド運営上の諸方針を記載した基本計画書を商品担当役員の決裁により決定します。

ロ．基本的な運用方針の決定

CIOが議長となり、原則として月1回運用会議を開催し、基本的な運用方針を決定します。

ハ．運用計画書の作成・承認

ファンドマネージャーは、基本計画書に定められた各ファンドの諸方針と運用会議で決定された基本的な運用方針にしたがって運用計画書を作成します。運用部長は、ファンドマネージャーから提示を受けた運用計画書について、基本計画書および運用会議の決定事項との整合性等を確認し、承認します。

職務権限

ファンド運用の意思決定機能を担う運用本部において、各職位の主たる職務権限は、社内規則によって、次のように定められています。

イ．CIO (Chief Investment Officer) (1名)

運用最高責任者として、次の職務を遂行します。

- ・基本的な運用方針の決定
- ・その他ファンドの運用に関する重要事項の決定

ロ．Deputy-CIO (0～5名程度)

CIOを補佐し、その指揮を受け、職務を遂行します。

ハ．インベストメント・オフィサー (0～5名程度)

CIOおよびDeputy-CIOを補佐し、その指揮を受け、職務を遂行します。

ニ．運用部長（各運用部に1名）

ファンドマネージャーが策定する運用計画を決定します。

ホ．運用チームリーダー

ファンドの基本的な運用方針を策定します。

ヘ．ファンドマネージャー

ファンドの運用計画を策定して、これに沿ってポートフォリオを構築します。

リスクマネジメント会議、FD諮問委員会および資産運用高度化委員会

次のとおり各会議体等において必要な報告・審議等を行なっています。これら会議体等の事務局となる部署の人員は35～45名程度です。

イ．リスクマネジメント会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用リスクの状況・運用リスク管理等の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

ロ．FD諮問委員会

取締役会の諮問委員会として、ファンド組成・運用に関わる会議体等に対する牽制に資する事項について、取締役会に意見を述べます。

ハ．資産運用高度化委員会

資産運用高度化への取組みについて報告・検討し、必要事項を審議・決定します。

受託会社に対する管理体制

受託会社に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行なっています。また、受託会社より内部統制の整備および運用状況の報告書を受け取っています。

上記の運用体制は2022年10月末日現在のものであり、変更となる場合があります。

(4)【分配方針】

分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。

原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

留保益は、前(1)に基づいて運用します。

(5)【投資制限】

株式（信託約款）

株式への直接投資は、行ないません。

投資信託証券（信託約款）

投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。

外貨建資産（信託約款）

外貨建資産への直接投資は、行ないません。

信用リスク集中回避（信託約款）

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則と

して、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

資金の借入れ（信託約款）

- イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。
- ロ．一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から、信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間、または解約代金の入金日までの間、もしくは償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は、借入指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- ハ．収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- ニ．借入金の利息は信託財産中から支弁します。

< 参 考 > 投資対象ファンドについて

下記以外の項目（「基本方針」、「投資態度」、「運用管理費用（信託報酬）」等）については、「1 ファンドの性格（1）ファンドの目的及び基本的性格 < ファンドの特色 >」をご参照下さい。

1. 四国応援マザーファンド

主な投資制限	<p>株式への投資割合には、制限を設けません。</p> <p>新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。</p> <p>投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>外貨建資産への投資は、行ないません。</p>
収益分配方針	信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで信託財産中に留保し、分配は行ないません。
販売手数料	ありません。
償還条項	信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

2. 地方創生ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用）

主な投資制限	<p>マザーファンドの受益証券への投資割合には、制限を設けません。</p> <p>株式への実質投資割合には、制限を設けません。</p> <p>新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。</p> <p>投資信託証券（マザーファンドの受益証券および上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>外貨建資産への投資は、行ないません。</p>
収益分配方針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。</p> <p>原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</p> <p>留保益は、上記「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用します。</p>
販売手数料	ありません。
償還条項	<p>受益権の口数が30億口を下ることとなった場合もしくは信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。</p>

3. ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド

主な投資制限	<p>株式への投資は、転換社債の転換および新株予約権（新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権に限ります。）の行使等により取得したものに限りません。</p> <p>株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。</p>
収益分配方針	<p>信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで信託財産中に留保し、分配は行ないません。</p>

販売手数料	ありません。
償還条項	信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

4. ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド

主な投資制限	<p>株式への投資は、転換社債の転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。）の行使等により取得したものに限ります。</p> <p>株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。</p>
収益分配方針	信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで信託財産中に留保し、分配は行ないません。
販売手数料	ありません。
償還条項	信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

3【投資リスク】

(1) 価額変動リスク

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、株式、公社債など値動きのある証券（外国証券には為替リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。委託会社の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資信託は預貯金とは異なります。

投資者のみなさまにおかれましては、当ファンドの内容・リスクを十分ご理解のうえお申込み下さいますよう、よろしく願い申し上げます。

基準価額の主な変動要因については、次のとおりです。

株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります（発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。）。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

当ファンドは時価総額が小さい企業の株式に投資することがあります。時価総額が小さい企業の株式については、株式市場全体の動きと比較して株価が大きく変動するリスクがあり、当ファンドの基準価額に影響する可能性があります。

公社債の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）

公社債の価格は、一般に金利が低下した場合には上昇し、金利が上昇した場合には下落します（値動きの幅は、残存期間、発行体、公社債の種類等により異なります。）。また、公社債の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。特に、発行体が財政難、経営不安等により、利息および償還金をあらかじめ決定された条件で支払うことができなくなった場合（債務不履行）、またはできなくなることが予想される場合には、大きく下落します（利息および償還金が支払われないこともあります。）。組入公社債の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

外国証券への投資に伴うリスク

イ．為替リスク

外貨建資産の円換算価値は、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

<ファンドの特色>1. の外貨建て資産については、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。そのため基準価額は、為替レートの変動の影響を直接受けません。

<ファンドの特色>1. の外貨建ての資産については、為替変動リスクの低減のために、為替ヘッジを行ないません。ただし、影響をすべて排除できるわけではありません。為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

ロ．カントリー・リスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。

その他

イ．解約申込みがあった場合には、解約資金を手当てするため組入証券を売却しなければならないことがあります。その際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

ロ．ファンド資産をコール・ローン、譲渡性預金証書等の短期金融資産で運用する場合、債務不履行により損失が発生することがあります（信用リスク）。この場合、基準価額が下落する要因となります。

(2)換金性等が制限される場合

通常と異なる状況において、お買付け・ご換金に制限を設けることがあります。

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、お買付け、ご換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けたお買付けの申込みを取消することがあります。

ご換金の申込みの受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日のご換金の申込みを撤回することができます。ただし、受益者がそのご換金の申込みを撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日にご換金の申込みを受付けたものとして取扱います。

(3)その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

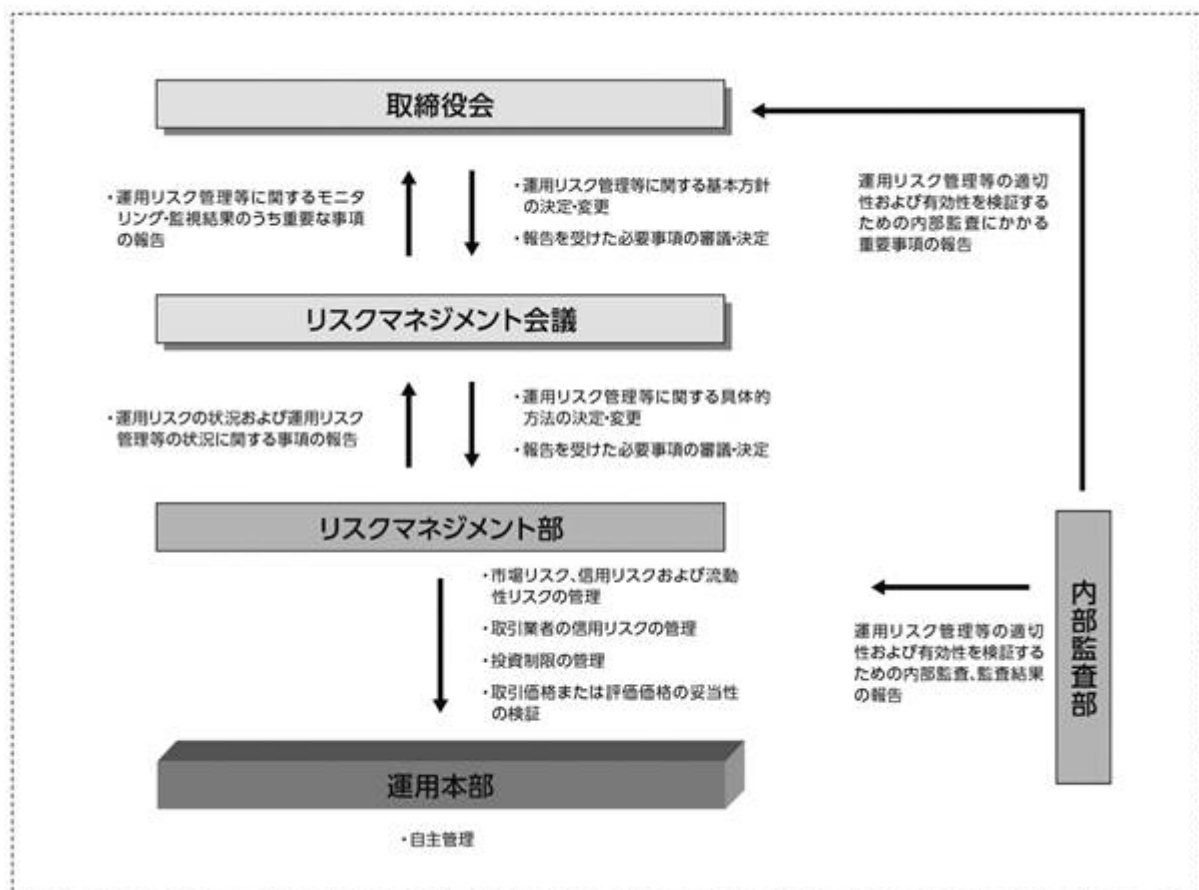
流動性リスクに関する事項

- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。

これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

(4)リスク管理体制

運用リスク管理体制（ ）は、以下のとおりとなっています。

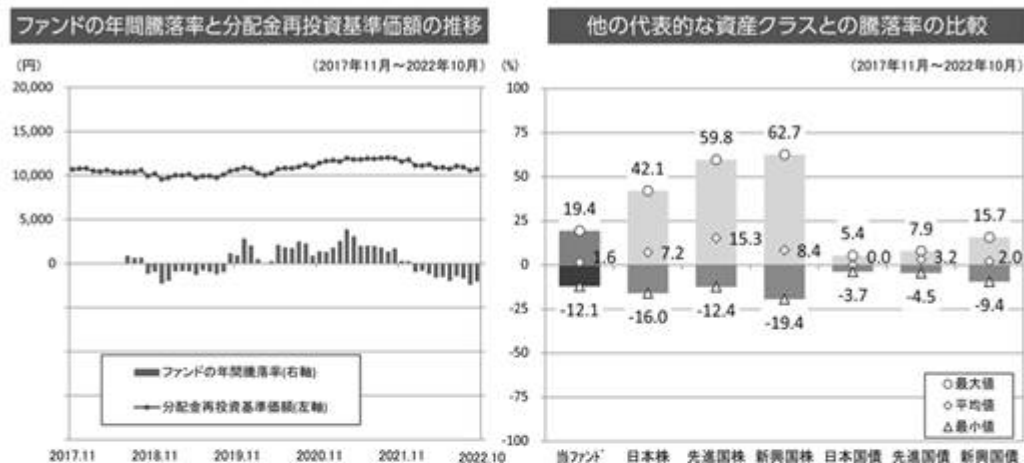


流動性リスクに対する管理体制

- 委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行ないます。
- 取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

参考情報

下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。右のグラフは過去5年間における年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。また左のグラフはファンドの過去5年間における年間騰落率の推移を表示しています。



※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)
 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
 日本国債：NOMURA-BPI国債
 先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
 新興国債：JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド (円ベース)

※指数について

●東証株価指数 (TOPIX) の指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社 (以下「J P X」といいます。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. (「MSCI」) が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。【<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>】 ●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス エマージング・マーケット グローバルダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016. J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

販売会社におけるお買付時の申込手数料の料率の上限は、3.3% (税抜3.0%) となっています。

具体的な手数料の料率等については、販売会社にお問合わせ下さい。

申込手数料には、消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）が課されます。

「分配金再投資コース」の収益分配金の再投資の際には、申込手数料はかかりません。

申込手数料は、お買付時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

(2) 【換金（解約）手数料】

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年率0.9955%（税抜0.905%）を乗じて得た額とします。信託報酬は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。信託報酬は、毎計算期間の最初の6か月終了日（6か月終了日が休業日の場合には、翌営業日とします。）および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

信託報酬にかかる委託会社、販売会社、受託会社への配分については、次のとおりです。

委託会社	販売会社	受託会社
年率0.375% （税抜）	年率0.50% （税抜）	年率0.03% （税抜）

上記の信託報酬の配分には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

前 の販売会社への配分は、販売会社の行なう業務に対する代行手数料であり、委託会社が一旦信託財産から収受した後、販売会社に支払われます。

投資対象ファンドの信託報酬等については、「1 ファンドの性格 (1)ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」の<投資対象ファンドの概要>をご参照下さい。なお、当ファンドの信託報酬に投資対象ファンドの信託報酬を加えた、投資者が実質的に負担する信託報酬率は、年率1.14125%（税込）程度です。

信託報酬を対価とする役務の内容は、配分先に応じて、それぞれ以下のとおりです。

委託会社：ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価

販売会社：運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価

受託会社：運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価

(4) 【その他の手数料等】

信託財産において資金借入れを行なった場合、当該借入金の利息は信託財産中より支弁します。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息および信託財産にかかる監査報酬ならびに当該監査報酬にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

信託財産に属する有価証券等に関連して発生した訴訟係争物たる権利その他の権利に基づいて益金が生じた場合、当該支払いに際して特別に必要となる費用（データ処理費用、郵送料等）は、受益者の負担とし、当該益金から支弁します。

信託財産で有価証券の売買を行なう際に発生する売買委託手数料、当該売買委託手数料にかかる消費税等に相当する金額、信託財産に属する資産を外国で保管する場合の費用は、信託財産中より支弁します。

（ ）「その他の手数料等」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

< 投資対象ファンドより支弁する手数料等 >

各ファンドの投資対象等に応じて、信託財産に関する租税、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を支弁します。その他、マザーファンドを除く投資対象ファンドからは監査報酬を支弁します。

(5) 【課税上の取扱い】

課税上は株式投資信託として取扱われます。

個人の投資者に対する課税

イ．収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として課税され、20%（所得税15%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。

ロ．解約金および償還金に対する課税

一部解約時および償還時の差益（解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料（税込）を含む）を控除した利益）については、譲渡所得とみなされ、20%（所得税15%および地方税5%）の税率により、申告分離課税が適用されます。ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。

ハ．損益通算について

一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、上場株式等（特定公社債、公募公社債投資信託を含みます。）の譲渡益および償還差益と相殺することができ、申告分離課税を選択した上場株式等の配当所得および利子所得との損益通算も可能となります。また、翌年以後3年間、上場株式等の譲渡益・償還差益および配当等・利子から繰越控除することができます。一部解約時および償還時の差益については、他の上場株式等の譲渡損および償還差損との相殺が可能となります。

なお、特定口座にかかる課税上の取扱いにつきましては、販売会社にお問合わせ下さい。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA（ジュニアニーサ）」をご利用の場合

公募株式投資信託は、税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA（ジュニアニーサ）」の適用対象です。毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります（他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。）。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方となります。当ファンドの非課税口座における取扱いは販売会社により異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。

法人の投資者に対する課税

法人の投資者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として課税され、15%（所得税15%）の税率で源泉徴収（ ）され法人の受取額となります。地方税の源泉徴収はありません。収益分配金のうち所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）には課税されません。ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）となります。なお、益金不算入制度の適用はありません。

源泉徴収された税金は法人税額から控除されます。

<注1> 個別元本について

投資者ごとの信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。）が当該投資者の元本（個別元本）にあたります。

投資者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該投資者が追加信託を行なうつど当該投資者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

投資者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該投資者の個別元本となります。

個別元本について、詳しくは販売会社にお問合わせ下さい。

<注2> 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（投資者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

投資者が収益分配金を受取る際、イ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該投資者の個別元本と同額の場合または当該投資者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、ロ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該投資者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

- () 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- () 上記は、2022年10月末日現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。
- () 課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

(1)【投資状況】（2022年10月31日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	885,117,297	24.63
内 日本	885,117,297	24.63
親投資信託受益証券	2,679,789,848	74.58
内 日本	2,679,789,848	74.58
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	28,048,657	0.78
純資産総額	3,592,955,802	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2)【投資資産】（2022年10月31日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数 または 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド	日本	親投資信託受益証券	475,192,874	1.8721 889,655,237	1.9018 903,721,807	25.15
2	ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド	日本	親投資信託受益証券	893,667,951	1.0911 975,093,506	0.9981 891,969,981	24.83
3	地方創生ファンド	日本	投資信託受益証券	771,814,874	1.0872 839,117,789	1.1468 885,117,297	24.63
4	四国応援マザーファンド	日本	親投資信託受益証券	786,144,461	1.1806 928,131,795	1.1246 884,098,060	24.61

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	24.63%
親投資信託受益証券	74.58%

合計	99.22%
----	--------

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

八．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1計算期間末 (2018年4月10日)	6,040,219,350	6,040,219,350	1.0476	1.0476
第2計算期間末 (2019年4月10日)	6,240,266,241	6,240,266,241	1.0117	1.0117
第3計算期間末 (2020年4月10日)	4,619,806,565	4,619,806,565	1.0036	1.0036
第4計算期間末 (2021年4月12日)	4,150,378,330	4,150,378,330	1.1956	1.1956
2021年10月末日	3,895,865,170	-	1.1934	-
11月末日	3,717,692,833	-	1.1576	-
12月末日	3,742,996,061	-	1.1779	-
2022年1月末日	3,580,458,228	-	1.1140	-
2月末日	3,552,084,704	-	1.1100	-
3月末日	3,656,451,959	-	1.1238	-
第5計算期間末 (2022年4月11日)	3,568,864,510	3,568,864,510	1.0975	1.0975
4月末日	3,562,390,054	-	1.0859	-
5月末日	3,588,162,698	-	1.0907	-
6月末日	3,536,271,384	-	1.0741	-
7月末日	3,656,645,691	-	1.1048	-
8月末日	3,631,250,406	-	1.0942	-

9月末日	3,515,709,952	-	1.0554	-
10月末日	3,592,955,802	-	1.0715	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1計算期間	0.0000
第2計算期間	0.0000
第3計算期間	0.0000
第4計算期間	0.0000
第5計算期間	0.0000
2022年4月12日～ 2022年10月11日	-

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1計算期間	4.8
第2計算期間	3.4
第3計算期間	0.8
第4計算期間	19.1
第5計算期間	8.2
2022年4月12日～ 2022年10月11日	3.8

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1計算期間	4,228,367,794	2,737,763,130
第2計算期間	1,705,019,842	1,303,054,501
第3計算期間	926,598,849	2,491,355,294
第4計算期間	755,467,855	1,887,023,222
第5計算期間	560,351,848	779,946,811
2022年4月12日～ 2022年10月11日	261,017,460	180,042,555

(注) 当初設定数量は4,275,252,461口です。

(参考) マザーファンド

四国応援マザーファンド

(1) 投資状況 (2022年10月31日現在)

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
株式	1,071,240,300	98.63
内 日本	1,071,240,300	98.63
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	14,927,881	1.37
純資産総額	1,086,168,181	100.00

その他の資産の投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
株価指数先物取引(買建)	13,482,000	1.24
内 日本	13,482,000	1.24

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(注3) 株価指数先物取引の時価については、原則として当該日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しています。このような時価が発表されていない場合には、当該日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しています。

(2) 投資資産 (2022年10月31日現在)

投資有価証券の主要銘柄

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	業種	株数、口数 または 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	三浦工業	日本	株式	機械	31,500	2,705.65 85,227,999	3,035.00 95,602,500	8.80
2	ユニ・チャーム	日本	株式	化学	20,600	4,339.44 89,392,502	4,532.00 93,359,200	8.60
3	富士通	日本	株式	電気機器	5,200	18,310.92 95,216,806	17,125.00 89,050,000	8.20
4	三菱電機	日本	株式	電気機器	53,900	1,354.54 73,009,997	1,310.00 70,609,000	6.50
5	大塚ホールディングス	日本	株式	医薬品	14,000	4,243.80 59,413,274	4,766.00 66,724,000	6.14
6	イオン	日本	株式	小売業	21,900	2,572.48 56,337,472	2,776.50 60,805,350	5.60
7	ジャストシステム	日本	株式	情報・通信業	16,100	5,592.63 90,041,348	3,140.00 50,554,000	4.65

8	日本製鉄	日本	株式	鉄鋼	23,900	2,183.21 52,178,851	2,042.50 48,815,750	4.49
9	大王製紙	日本	株式	パルプ・紙	42,400	1,529.39 64,846,178	1,098.00 46,555,200	4.29
10	フジ	日本	株式	小売業	21,800	2,119.38 46,202,644	1,842.00 40,155,600	3.70
11	四国電力	日本	株式	電気・ガス業	56,000	765.43 42,864,529	716.00 40,096,000	3.69
12	住友鉱山	日本	株式	非鉄金属	7,300	6,116.01 44,646,874	4,182.00 30,528,600	2.81
13	東レ	日本	株式	繊維製品	41,000	612.70 25,120,729	724.50 29,704,500	2.73
14	タダノ	日本	株式	機械	32,500	951.79 30,933,300	910.00 29,575,000	2.72
15	技研製作所	日本	株式	機械	7,100	3,596.31 25,533,862	3,210.00 22,791,000	2.10
16	住友化学	日本	株式	化学	41,600	537.08 22,342,631	501.00 20,841,600	1.92
17	四国化成	日本	株式	化学	13,600	1,295.07 17,613,031	1,296.00 17,625,600	1.62
18	王子ホールディングス	日本	株式	パルプ・紙	25,500	590.52 15,058,283	516.00 13,158,000	1.21
19	川崎重工業	日本	株式	輸送用機器	4,200	2,581.41 10,841,937	2,526.00 10,609,200	0.98
20	住友ファーマ	日本	株式	医薬品	10,000	1,242.23 12,422,321	1,037.00 10,370,000	0.95
21	電源開発	日本	株式	電気・ガス業	4,600	1,732.66 7,970,273	2,068.00 9,512,800	0.88
22	クラレ	日本	株式	化学	8,900	1,009.13 8,981,303	1,023.00 9,104,700	0.84
23	ジェイテクト	日本	株式	機械	8,600	875.67 7,530,786	1,050.00 9,030,000	0.83
24	住友重機械	日本	株式	機械	3,100	2,678.47 8,303,286	2,823.00 8,751,300	0.81
25	四電工	日本	株式	建設業	4,100	1,701.31 6,975,381	1,810.00 7,421,000	0.68
26	井関農機	日本	株式	機械	5,800	1,238.99 7,186,152	1,230.00 7,134,000	0.66
27	帝人	日本	株式	繊維製品	5,000	1,316.22 6,581,122	1,350.00 6,750,000	0.62

28	三菱マテリアル	日本	株式	非鉄金属	3,300	2,068.94 6,827,509	1,946.00 6,421,800	0.59
29	太平洋セメント	日本	株式	ガラス・土 石製品	3,100	1,961.98 6,082,159	2,021.00 6,265,100	0.58
30	ニホンフラッシュ	日本	株式	その他製 品	6,300	986.06 6,212,217	968.00 6,098,400	0.56

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
株式	98.63%
合計	98.63%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

業種	投資比率
水産・農林業	0.26%
鉱業	0.11%
建設業	1.22%
食料品	0.16%
繊維製品	3.45%
パルプ・紙	6.56%
化学	14.71%
医薬品	7.10%
ゴム製品	0.45%
ガラス・土石製品	1.06%
鉄鋼	5.15%
非鉄金属	3.40%
機械	16.19%
電気機器	15.78%
輸送用機器	1.14%
その他製品	1.23%
電気・ガス業	4.57%
情報・通信業	5.19%
卸売業	0.63%
小売業	9.69%
不動産業	0.52%
サービス業	0.06%
合計	98.63%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該業種の時価の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

(単位：円)

種類	地域	資産名	買建/ 売建	数量	簿価	時価	投資 比率
株価指数先物 取引	日本	ミニTPX先物 041 2月	買建	7	13,225,520	13,482,000	1.24%

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 株価指数先物取引の時価については、原則として当該日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しています。このような時価が発表されていない場合には、当該日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しています。

(参考) 投資信託証券

地方創生ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用）

(1) 投資状況（2022年10月31日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	1,103,894,263	99.91
内 日本	1,103,894,263	99.91
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	1,018,844	0.09
純資産総額	1,104,913,107	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 投資資産（2022年10月31日現在）

投資有価証券の主要銘柄

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数 または 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	地方創生マザーファンド	日本	親投資信 託受益証 券	649,770,006	1.6289 1,058,475,174	1.6989 1,103,894,263	99.91

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
親投資信託受益証券	99.91%
合計	99.91%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

参考情報 マザーファンド

地方創生マザーファンド

(1) 投資状況（2022年10月31日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
株式	2,427,152,700	96.16
内 日本	2,427,152,700	96.16
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	96,952,997	3.84
純資産総額	2,524,105,697	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 投資資産（2022年10月31日現在）

投資有価証券の主要銘柄

イ．主要銘柄の明細

銘柄名	地域	種類	業種	株数、口数 または 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
-----	----	----	----	----------------------	-------------------	-------------------	-----------------

1	MARUWA	日本	株式	ガラス・土石製品	5,000	15,822.95 79,114,792	17,510.00 87,550,000	3.47
2	ゴ-ルドウイン	日本	株式	繊維製品	8,000	6,438.68 51,509,446	7,780.00 62,240,000	2.47
3	デクセリアルズ	日本	株式	化学	17,000	3,285.02 55,845,412	3,475.00 59,075,000	2.34
4	エフピコ	日本	株式	化学	16,000	3,279.13 52,466,232	3,545.00 56,720,000	2.25
5	イビデン	日本	株式	電気機器	10,700	5,800.37 62,064,050	5,030.00 53,821,000	2.13
6	マニー	日本	株式	精密機器	24,000	1,722.25 41,334,031	2,170.00 52,080,000	2.06
7	ダイセキ	日本	株式	サービス業	10,000	4,875.00 48,750,000	4,600.00 46,000,000	1.82
8	ウエストホールディングス	日本	株式	建設業	10,000	4,745.00 47,450,000	4,455.00 44,550,000	1.76
9	セーレン	日本	株式	繊維製品	19,000	2,246.95 42,692,091	2,333.00 44,327,000	1.76
10	物語コーポレーション	日本	株式	小売業	6,000	5,680.00 34,080,000	6,820.00 40,920,000	1.62
11	リンクアンドモチベーション	日本	株式	サービス業	41,000	498.00 20,418,293	900.00 36,900,000	1.46
12	前田工織	日本	株式	その他製品	12,000	3,143.15 37,717,865	3,025.00 36,300,000	1.44
13	カブコン	日本	株式	情報・通信業	8,000	3,007.52 24,060,229	4,145.00 33,160,000	1.31
14	リゾートトラスト	日本	株式	サービス業	13,300	2,186.00 29,073,800	2,290.00 30,457,000	1.21
15	コメダホールディングス	日本	株式	卸売業	12,000	2,032.00 24,384,000	2,483.00 29,796,000	1.18
16	栗田工業	日本	株式	機械	5,400	4,690.00 25,326,000	5,460.00 29,484,000	1.17
17	三越伊勢丹HD	日本	株式	小売業	22,000	1,082.16 23,807,642	1,320.00 29,040,000	1.15
18	IDEC	日本	株式	電気機器	9,000	2,640.00 23,760,000	3,190.00 28,710,000	1.14
19	ラウンドワン	日本	株式	サービス業	45,000	489.89 22,045,457	633.00 28,485,000	1.13
20	オルガノ	日本	株式	機械	10,800	2,535.00 27,378,000	2,575.00 27,810,000	1.10

21	SHOEI	日本	株式	その他製 品	5,000	4,791.55 23,957,770	5,490.00 27,450,000	1.09
22	BEENOS	日本	株式	小売業	10,000	2,009.70 20,097,049	2,704.00 27,040,000	1.07
23	メック	日本	株式	化学	11,000	3,044.39 33,488,343	2,385.00 26,235,000	1.04
24	ジェイ・エス・ビー	日本	株式	不動産業	6,800	3,250.00 22,100,000	3,855.00 26,214,000	1.04
25	シグマクシス・ホールディング	日本	株式	サービス業	21,600	1,173.00 25,336,800	1,198.00 25,876,800	1.03
26	シップヘルスケアHD	日本	株式	卸売業	9,000	2,092.00 18,828,000	2,851.00 25,659,000	1.02
27	日本曹達	日本	株式	化学	5,700	3,515.00 20,035,500	4,435.00 25,279,500	1.00
28	ダイワボウHD	日本	株式	卸売業	13,000	1,701.21 22,115,758	1,923.00 24,999,000	0.99
29	九州旅客鉄道	日本	株式	陸運業	8,000	2,858.92 22,871,372	3,110.00 24,880,000	0.99
30	日本新薬	日本	株式	医薬品	3,000	8,574.21 25,722,636	8,240.00 24,720,000	0.98

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
株式	96.16%
合計	96.16%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

業種	投資比率
建設業	2.77%
食料品	1.51%
繊維製品	5.37%
パルプ・紙	0.95%
化学	12.61%
医薬品	0.98%
ガラス・土石製品	4.47%
鉄鋼	3.00%
非鉄金属	0.91%

金属製品	0.50%
機械	9.64%
電気機器	7.62%
輸送用機器	2.98%
精密機器	2.06%
その他製品	5.68%
陸運業	3.18%
倉庫・運輸関連業	0.61%
情報・通信業	3.52%
卸売業	6.24%
小売業	7.71%
不動産業	2.54%
サービス業	11.30%
合計	96.16%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該業種の時価の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド

(1) 投資状況（2022年10月31日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
国債証券	16,338,530,073	91.52
内 ユーロ	4,441,164,681	24.88
内 ノルウェー	284,312,144	1.59
内 スウェーデン	365,486,716	2.05
内 デンマーク	533,626,807	2.99
内 イギリス	2,095,049,321	11.74
内 ポーランド	1,011,785,853	5.67
内 カナダ	1,215,638,003	6.81
内 アメリカ	4,139,859,842	23.19

	内 オーストラリア	2,251,606,706	12.61
特殊債券		985,403,066	5.52
	内 カナダ	985,403,066	5.52
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		528,704,688	2.96
純資産総額		17,852,637,827	100.00

その他の資産の投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
為替予約取引(買建)	712,746,069	3.99
内 日本	712,746,069	3.99
為替予約取引(売建)	713,074,088	3.99
内 日本	713,074,088	3.99

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(注3) 為替予約取引の時価については、原則として対顧客先物売買相場の仲値で評価しています。

(2) 投資資産 (2022年10月31日現在)

投資有価証券の主要銘柄

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数 または 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
1	United States Treasury Note/Bond	アメリカ	国債証券	19,807,400	79.21 2,326,116,602	79.04 2,321,183,037	0.875000 2030/11/15	13.00
2	AUSTRALIAN GOVERNMENT BOND	オーストラリア	国債証券	19,000,000	105.42 1,903,886,668	106.57 1,924,727,331	4.500000 2033/04/21	10.78
3	SPANISH GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	9,136,000	92.34 1,245,150,095	93.63 1,262,557,710	1.400000 2028/04/30	7.07
4	FRENCH GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	6,210,400	100.97 925,548,047	104.42 957,170,504	3.250000 2045/05/25	5.36
5	United States Treasury Note/Bond	アメリカ	国債証券	6,307,800	91.59 856,628,743	91.55 856,207,906	2.250000 2027/08/15	4.80
6	SPANISH GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	5,660,000	98.06 819,161,781	98.73 824,817,164	1.950000 2026/04/30	4.62
7	CANADIAN GOVERNMENT BOND	カナダ	国債証券	8,946,000	79.35 772,830,134	80.72 786,241,439	0.500000 2030/12/01	4.40
8	CANADA HOUSING TRUST	カナダ	特殊債券	6,630,000	94.73 683,826,557	95.37 688,410,039	2.250000 2025/12/15	3.86

9	United States Treasury Note/Bond	アメリカ	国債証券	7,686,000	61.35 699,133,607	59.61 679,305,848	1.125000 2040/08/15	3.81
10	Poland Government Bond	ポーランド	国債証券	25,000,000	79.16 618,995,093	77.13 603,122,421	2.750000 2028/04/25	3.38
11	United Kingdom Gilt	イギリス	国債証券	3,200,000	84.64 466,411,276	89.91 495,462,105	1.625000 2028/10/22	2.78
12	United Kingdom Gilt	イギリス	国債証券	3,020,000	89.45 465,189,758	93.43 485,887,510	1.500000 2026/07/22	2.72
13	United Kingdom Gilt	イギリス	国債証券	3,095,700	69.23 369,082,949	75.76 403,871,720	0.250000 2031/07/31	2.26
14	DANISH GOVERNMENT BOND	デンマーク	国債証券	20,200,000	98.39 394,116,887	98.85 395,971,507	1.750000 2025/11/15	2.22
15	IRISH TREASURY	ユーロ	国債証券	2,387,600	91.47 322,330,891	92.96 327,609,631	1.100000 2029/05/15	1.84
16	Belgium Government Bond	ユーロ	国債証券	1,950,000	106.85 307,526,346	110.77 318,802,369	3.750000 2045/06/22	1.79
17	CANADA HOUSING TRUST	カナダ	特殊債券	2,815,000	96.40 295,460,681	96.90 296,993,026	2.550000 2025/03/15	1.66
18	NORWEGIAN GOVERNMENT BOND	ノルウェー	国債証券	20,000,000	99.59 285,231,488	99.27 284,312,144	3.000000 2024/03/14	1.59
19	AUSTRALIAN GOVERNMENT BOND	オーストラリア	国債証券	2,900,000	97.44 268,613,296	98.29 270,945,252	3.250000 2029/04/21	1.52
20	United Kingdom Gilt	イギリス	国債証券	1,000,000	91.05 156,793,266	108.64 187,093,578	4.250000 2046/12/07	1.05
21	United Kingdom Gilt	イギリス	国債証券	1,800,000	45.94 142,398,723	59.11 183,235,953	1.250000 2051/07/31	1.03
22	SWEDISH GOVERNMENT BOND	スウェーデン	国債証券	13,630,000	99.28 182,958,172	99.25 182,895,518	1.500000 2023/11/13	1.02
23	SWEDISH GOVERNMENT BOND	スウェーデン	国債証券	14,230,000	94.47 181,750,455	94.90 182,591,197	1.000000 2026/11/12	1.02
24	FRENCH GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	2,100,000	52.83 163,757,894	57.24 177,418,381	0.750000 2053/05/25	0.99
25	IRISH TREASURY	ユーロ	国債証券	1,172,000	96.09 166,217,327	96.55 167,018,204	1.000000 2026/05/15	0.94
26	CANADIAN GOVERNMENT BOND	カナダ	国債証券	1,500,000	102.40 167,225,953	101.55 165,842,759	3.500000 2045/12/01	0.93
27	CANADIAN GOVERNMENT BOND	カナダ	国債証券	1,700,000	90.50 167,509,450	89.48 165,619,793	2.750000 2048/12/01	0.93
28	United Kingdom Gilt	イギリス	国債証券	900,000	98.05 151,962,539	106.59 165,194,731	4.250000 2032/06/07	0.93

29	UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND	アメリカ	国債証券	1,150,000	96.46 164,470,155	96.49 164,528,125	3.000000 2025/07/15	0.92
30	FRENCH GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	1,400,000	76.38 157,835,992	78.83 162,889,474	- 2032/05/25	0.91

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
国債証券	91.52%
特殊債券	5.52%
合計	97.04%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

(単位：円)

種類	地域	資産名	買建/ 売建	数量	簿価	時価	投資 比率
為替予約取引	日本	豪ドル買/円売 2022年11月	買建	1,093,189	103,152,000	103,645,277	0.58%
		ノルウェー・クローネ買/円売 2022年11月	買建	22,000,000	314,021,248	314,380,000	1.76%
		米ドル買/円売 2022年11月	買建	1,994,456	294,720,000	294,720,792	1.65%
		ユーロ売/円買 2022年11月	売建	2,700,000	397,872,000	398,007,000	2.23%
		ポーランド・ズロチ売/円買 2022年11月	売建	10,153,792	314,021,248	315,067,088	1.76%

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 為替予約取引の時価については、原則として対顧客先物売買相場の仲値で評価しています。

(注3) 為替予約取引の数量については、現地通貨建契約金額です。

ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド

(1) 投資状況（2022年10月31日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
国債証券	45,576,990,902	71.41
内 ユーロ	19,760,565,490	30.96
内 イギリス	2,094,303,288	3.28
内 ポーランド	477,188,802	0.75
内 アメリカ	21,147,052,498	33.13
内 メキシコ	2,097,880,824	3.29
地方債証券	566,988,428	0.89
内 カナダ	566,988,428	0.89
特殊債券	1,619,284,615	2.54
内 ユーロ	1,217,068,465	1.91
内 イギリス	402,216,150	0.63
社債券	14,593,934,274	22.86
内 ユーロ	182,267,156	0.29
内 スウェーデン	3,077,987,536	4.82
内 イギリス	442,664,380	0.69
内 アメリカ	7,699,518,309	12.06
内 オーストラリア	3,191,496,893	5.00
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	1,469,588,950	2.30
純資産総額	63,826,787,169	100.00

その他の資産の投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
債券先物取引(売建)	4,668,869,440	7.31
内 ドイツ	4,668,869,440	7.31
為替予約取引(売建)	63,861,365,190	100.05
内 日本	63,861,365,190	100.05

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(注3) 債券先物取引の時価については、原則として当該日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しています。このような時価が発表されていない場合には、当該日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しています。

(注4) 為替予約取引の時価については、原則として対顧客先物売買相場の仲値で評価しています。

(2) 投資資産 (2022年10月31日現在)

投資有価証券の主要銘柄

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数 または 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
1	Italy Buoni Poliennali Del Tesoro	ユーロ	国債証券	46,000,000	105.07 7,133,620,963	104.57 7,100,014,720	4.500000 2026/03/01	11.12
2	United States Treasury Note/Bond	アメリカ	国債証券	48,000,000	89.23 6,350,319,763	88.16 6,274,173,427	0.500000 2026/02/28	9.83
3	ITALIAN GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	37,000,000	83.71 4,571,533,834	85.01 4,642,470,016	1.650000 2030/12/01	7.27
4	United States Treasury Note/Bond	アメリカ	国債証券	45,000,000	75.02 5,005,309,491	68.06 4,540,759,020	1.875000 2041/02/15	7.11
5	UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND	アメリカ	国債証券	21,000,000	86.84 2,703,946,606	83.60 2,603,132,771	1.875000 2032/02/15	4.08
6	SVERIGES SAKERSTALLDA OBLIGATIONER AB	スウェーデン	社債券	200,000,000	85.91 2,323,087,520	85.59 2,314,542,880	0.250000 2027/06/09	3.63
7	United States Treasury Note/Bond	アメリカ	国債証券	16,000,000	87.50 2,075,806,051	83.85 1,989,079,881	0.750000 2028/01/31	3.12
8	ITALIAN GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	17,000,000	74.15 1,860,470,835	75.63 1,897,780,111	0.600000 2031/08/01	2.97
9	UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND	アメリカ	国債証券	15,000,000	76.98 1,712,135,807	67.81 1,508,071,068	2.250000 2052/02/15	2.36
10	Mexican Bonos	メキシコ	国債証券	200,000,000	96.02 1,436,094,324	93.95 1,405,179,858	8.500000 2029/05/31	2.20
11	European Union	ユーロ	特殊債券	10,500,000	80.33 1,244,962,975	78.53 1,217,068,465	- 2031/07/04	1.91
12	ITALIAN GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	7,000,000	116.79 1,206,613,189	115.75 1,195,889,300	7.250000 2026/11/01	1.87
13	ITALIAN GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	9,000,000	79.55 1,056,723,737	81.02 1,076,289,743	0.950000 2030/08/01	1.69
14	United States Treasury Note/Bond	アメリカ	国債証券	10,500,000	73.30 1,141,083,090	64.32 1,001,288,736	2.000000 2050/02/15	1.57
15	UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND	アメリカ	国債証券	7,000,000	89.98 933,916,380	89.99 933,954,974	2.750000 2032/08/15	1.46
16	United Kingdom Gilt	イギリス	国債証券	6,000,000	84.67 874,851,768	78.64 812,549,808	0.375000 2030/10/22	1.27

17	United States Treasury Note/Bond	アメリカ	国債証券	5,500,000	97.66 796,350,211	97.73 796,919,739	2.750000 2024/02/15	1.25
18	United Kingdom Gilt	イギリス	国債証券	5,000,000	92.99 800,704,170	90.18 776,518,680	0.125000 2026/01/30	1.22
19	Lansforsakringar Hypotek AB	スウェーデン	社債券	60,000,000	94.57 767,159,952	94.11 763,444,656	1.250000 2025/09/17	1.20
20	UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND	アメリカ	国債証券	5,500,000	83.14 677,948,502	80.22 654,154,254	1.375000 2031/11/15	1.02
21	FRENCH GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	6,500,000	70.02 671,764,740	67.11 643,848,091	0.500000 2040/05/25	1.01
22	UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND	アメリカ	国債証券	4,500,000	96.99 647,101,526	85.12 567,928,462	3.250000 2042/05/15	0.89
23	NETHERLANDS GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	3,500,000	112.75 582,447,700	105.72 546,143,511	2.750000 2047/01/15	0.86
24	ITALIAN GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	4,000,000	89.89 530,721,832	91.00 537,251,214	1.100000 2027/04/01	0.84
25	SPANISH GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	3,000,000	119.67 529,884,997	117.60 520,737,369	4.700000 2041/07/30	0.82
26	United Kingdom Gilt	イギリス	国債証券	6,000,000	59.48 614,557,692	48.90 505,234,800	0.625000 2050/10/22	0.79
27	Poland Government Bond	ポーランド	国債証券	25,000,000	61.48 480,754,289	61.02 477,188,802	1.250000 2030/10/25	0.75
28	Wells Fargo & Co	アメリカ	社債券	3,000,000	97.19 432,303,921	94.78 421,571,379	4.100000 2026/06/03	0.66
29	BNG Bank NV	イギリス	特殊債券	2,500,000	96.63 416,030,895	93.43 402,216,150	1.625000 2025/08/26	0.63
30	ITALIAN GOVERNMENT BOND	ユーロ	国債証券	2,800,000	96.67 399,494,840	97.10 401,275,957	2.000000 2025/12/01	0.63

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
国債証券	71.41%
地方債証券	0.89%
特殊債券	2.54%
社債券	22.86%
合計	97.70%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

八．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

(単位：円)

種類	地域	資産名	買建/ 売建	数量	簿価	時価	投資 比率
債券先物取引	ドイツ	EURO-BUND DEC 22	売建	35	748,128,692	719,730,015	1.13%
		EURO-SCHATZ DEC 22	売建	250	3,991,667,484	3,949,139,425	6.19%
為替予約取引	日本	スウェーデン・クローネ 売/円買 2022年11月	売建	226,400,000	2,903,881,112	3,058,822,480	4.79%
		カナダ・ドル売/円買 2022年11月	売建	5,600,000	589,157,128	608,783,280	0.95%
		米ドル売/円買 2022年11 月	売建	201,200,000	29,175,634,564	29,783,897,560	46.66%
		ポーランド・ズロチ売/ 円買 2022年11月	売建	17,500,000	507,370,220	545,319,250	0.85%
		英ポンド売/円買 2022年 11月	売建	16,300,000	2,615,020,410	2,803,513,610	4.39%
		ユーロ売/円買 2022年11 月	売建	144,700,000	20,472,062,168	21,344,118,200	33.44%
		豪ドル売/円買 2022年11 月	売建	35,200,000	3,263,866,496	3,341,817,600	5.24%
		メキシコ・ペソ売/円買 2022年11月	売建	319,100,000	2,303,397,822	2,375,093,210	3.72%

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 債券先物取引の時価については、原則として当該日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算
値段または最終相場で評価しています。このような時価が発表されていない場合には、当該日に最も近
い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しています。

(注3) 為替予約取引の時価については、原則として対顧客先物売買相場の仲値で評価しています。

(注4) 為替予約取引の数量については、現地通貨建契約金額です。

(参考情報) 運用実績

● 四国アライアンス 地域創生ファンド(年1回決算型)

2022年10月31日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	10,715円
純資産総額	35億円

基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	1.5%
3カ月間	-3.0%
6カ月間	-1.3%
1年間	-10.2%
3年間	1.9%
5年間	1.6%
設定来	7.1%



※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

決算期	直近1年間分配金合計額: 0円					設定来分配金合計額: 0円				
	第1期 18年4月	第2期 19年4月	第3期 20年4月	第4期 21年4月	第5期 22年4月					
分配金	0円	0円	0円	0円	0円					

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成	銘柄数	比率	通貨別構成	比率	債券ポートフォリオ特性値	組入上位銘柄(除く債券)	東証33業種名	比率
外国債券	138	48.7%	日本円	74.9%	直接利回り(%)	三浦工業	機械	2.2%
国内株式	184	47.9%	米ドル	6.3%	最終利回り(%)	ユニ・チャーム	化学	2.1%
外国債券 先物	2	-1.8%	ユーロ	6.0%	修正デュレーション	富士通	電気機器	2.0%
国内株式 先物	1	0.3%	豪ドル	3.4%	残存年数	三菱電機	電気機器	1.6%
			カナダ・ドル	3.2%	債券格付別構成	大塚ホールディングス	医薬品	1.5%
			英ポンド	3.0%	AAA	イオン	小売業	1.4%
			ポーランド・ズロチ	1.0%	AA	ジャストシステム	情報・通信業	1.1%
			ノルウェー・クローネ	0.9%	A	日本製鉄	鉄鋼	1.1%
			デンマーク・クローネ	0.8%	BBB	大王製紙	パルプ・紙	1.1%
コール・ローン、その他		3.4%	その他	0.5%	BB	フジ	小売業	0.9%
合計	325	-	合計	100.0%	合計	合計	合計	15.0%

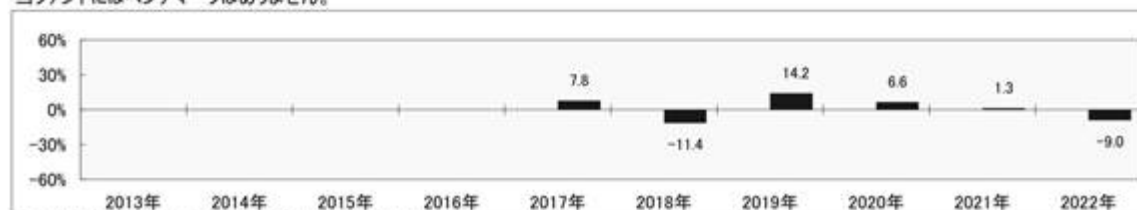
※債券格付別構成の比率は、債券ポートフォリオに対するものです。

※格付別構成については、RMJ、JCR、Moody's、S&P、Fitchの格付けのうち最も高いものを採用し、算出しています。

※先物の建玉がある場合は、資産別構成の比率合計欄を表示していません。

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2017年は設定日(7月28日)から年末、2022年は10月31日までの騰落率を表しています。

委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

受益権の取得申込者は、販売会社において取引口座を開設のうえ、取得の申込みを行なうものとします。

当ファンドには、収益分配金を税金を差引いた後無手数料で自動的に再投資する「分配金再投資コース」と、収益の分配が行なわれるごとに収益分配金を受益者に支払う「分配金支払いコース」があります。

「分配金再投資コース」を利用する場合、取得申込者は、販売会社と別に定める積立投資約款にしたがい契約（以下「別に定める契約」といいます。）を締結します。

販売会社は、受益権の取得申込者に対し、最低単位を1円単位または1口単位として販売会社が定める単位をもって、取得の申込みに応じることができます。

ただし、販売会社は、ロンドンの銀行、ニューヨークの銀行、シカゴ商品取引所における米国債先物取引、ユーレックス・ドイツにおけるドイツ国債先物取引またはICEフューチャーズ・ヨーロッパにおけるイギリス国債先物取引のいずれかの休業日と同じ日付の日を取得申込受付日とする受益権の取得申込みの受け付けを行ないません。

お買付価額（1万口当たり）は、お買付申込受付日の翌営業日の基準価額です。

お買付時の申込手数料については、販売会社が別に定めるものとします。申込手数料には、消費税等が課されます。なお、「分配金再投資コース」の収益分配金の再投資の際には、申込手数料はかかりません。

継続申込期間においては、委託会社の各営業日の午後3時までに受け付けた取得の申込み（当該申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを）、当日の受付分として取扱います。この時刻を過ぎて行なわれる申込みは、翌営業日の扱いとなります。

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生し、委託会社が追加設定を制限する措置をとった場合には、販売会社は、取得申込みの受け付けを中止することができるほか、すでに受け付けた取得申込みを取消することができるものとします。

取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設された当ファンドの受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行なわれます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行なうことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないません。受託会社は、信託契約締結日に生じた受益権については信託契約締結時に、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行ないません。

2【換金（解約）手続等】

委託会社の各営業日の午後3時までには受付けた換金の申込み（当該申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを）、当日の受付分として取扱います。この時刻を過ぎて行なわれる申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の解約請求には制限があります。

<一部解約>

受益者は、自己に帰属する受益権について、最低単位を1口単位として販売会社が定める単位をもって、委託会社に一部解約の実行を請求することができます。

ただし、販売会社は、ロンドンの銀行、ニューヨークの銀行、シカゴ商品取引所における米国債先物取引、ユーレックス・ドイツにおけるドイツ国債先物取引またはICEフューチャーズ・ヨーロッパにおけるイギリス国債先物取引のいずれかの休業日と同じ日付の日を一部解約請求受付日とする一部解約の実行の請求の受け付けを行いません。

受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行なうものとします。

解約価額は、一部解約の実行の請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

解約価額は、原則として、委託会社の各営業日に計算されます。

解約価額（基準価額）は、販売会社または下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約請求の受け付けを中止することができます。

一部解約請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日の一部解約請求を撤回することができます。ただし、受益者がその一部解約請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約請求を受け付けたものとして、当該計算日の翌営業日の基準価額とします。

一部解約金は、販売会社の営業所等において、原則として一部解約の実行の請求受付日から起算して5営業日目から受益者に支払います。

受託会社は、一部解約金について、受益者への支払開始日までに、その全額を委託会社の指定する預金口座等に払込みます。受託会社は、委託会社の指定する預金口座等に一部解約金を払込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

一部解約の実行の請求を行なう受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかる信託契約の一部解約を委託会社が行なうのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した1万口当たりの価額をいいます。

純資産総額とは、信託財産に属する資産を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価（注1、注2）により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。

(注1) 当ファンドの主要な投資対象資産の評価方法の概要

- ・地方創生ファンド（F0Fs用）（適格機関投資家専用）の受益証券：計算日の前営業日の基準価額で評価します。
- ・マザーファンドの受益証券：計算日の基準価額で評価します。

(注2) マザーファンドの主要な投資対象資産の評価方法の概要

- ・海外の公社債：原則として、次に掲げるいずれかの価額で評価します。
 1. 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）
 2. 価格情報会社の提供する価額
- ・わが国の金融商品取引所上場株式：原則として当該取引所における計算日の最終相場で評価します。

基準価額は、原則として、委託会社の各営業日に計算されます。

基準価額は、販売会社または下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

2017年7月28日から2027年4月9日までとします。ただし、(5) により信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長することができます。

(4)【計算期間】

毎年4月11日から翌年4月10日までとします。ただし、第1計算期間は、2017年7月28日から2018年4月10日までとし、最終計算期間は、2026年4月11日から2027年4月9日までとします。

上記にかかわらず、上記により各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日の場合には、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日から次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日には適用しません。

(5)【その他】

信託の終了

1. 委託会社は、受益権の口数が30億口を下ることとなった場合もしくは信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
2. 委託会社は、前1.の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
3. 前2.の書面決議において、受益者(委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本3.において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、信託契約にかかる知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
4. 前2.の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行ないます。
5. 前2.から前4.までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前2.から前4.までの手続きを行なうことが困難な場合も同じとします。
6. 委託会社は、監督官庁より信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。
7. 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
8. 受託会社が辞任した場合または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更等

1. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することまたは当ファンドと他のファンドとの併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行なうことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、信託約款は本の1.から7.までに定める以外の方法によって変更することができないものとし、
2. 委託会社は、前1.の事項(前1.の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、前1.の併合事項にあつては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な信託約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な信託約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
3. 前2.の書面決議において、受益者(委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本3.において同

じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使うことができます。なお、信託約款にかかる知っている受益者が議決権を行行使わないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

4. 前2. の書面決議は議決権を行行使うことができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行ないます。
5. 書面決議の効力は、当ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。
6. 前2. から前5. までの規定は、委託会社が重大な信託約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
7. 前1. から前6. までの規定にかかわらず、当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合にかかる一または複数の他のファンドにおいて当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行なうことはできません。
8. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、前1. から前7. までの規定にしたがいます。

反対受益者の受益権買取請求の不適用

当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

運用報告書

1. 委託会社は、運用経過のほか信託財産の内容、有価証券売買状況、費用明細などのうち重要な事項を記載した交付運用報告書(投資信託及び投資法人に関する法律第14条第4項に定める運用報告書)を計算期間の末日および償還時に作成し、信託財産にかかる知っている受益者に対して交付します。また、電子交付を選択された場合には、所定の方法により交付します。
2. 委託会社は、運用報告書(全体版)(投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書)を作成し、委託会社のホームページに掲載します。
 - ・委託会社のホームページ
アドレス <https://www.daiwa-am.co.jp/>
3. 前2. の規定にかかわらず、受益者から運用報告書(全体版)の交付の請求があった場合には、これを交付します。

公告

1. 委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行ない、次のアドレスに掲載します。
<https://www.daiwa-am.co.jp/>
2. 前1. の電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

関係法人との契約の更改

委託会社と販売会社との間で締結される受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約は、期間満了の1か月(または3か月)前までに、委託会社および販売会社いずれからも何ら意思の表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。

4【受益者の権利等】

信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託会社の指定する受益権取得申込者とし、分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

受益者の有する主な権利の内容、その行使の方法等は、次のとおりです。

< 収益分配金および償還金にかかる請求権 >

受益者は、収益分配金（分配金額は、委託会社が決定します。）および償還金（信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。）を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に、原則として決算日から起算して5営業日までに支払います。

上記にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者については、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が再投資されます。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金は、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に、原則として信託終了日から起算して5営業日までに支払います。

収益分配金および償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行なうものとします。

受益者が、収益分配金については支払開始日から5年間その支払いを請求しないときならびに信託終了による償還金については支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

< 換金請求権 >

受益者は、保有する受益権を換金する権利を有します。権利行使の方法等については、「2 換金（解約）手続等」をご参照下さい。

第3 【ファンドの経理状況】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第5期計算期間（2021年4月13日から2022年4月11日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1 【財務諸表】

【財務諸表】

四国アライアンス 地域創生ファンド（年1回決算型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	第4期 2021年4月12日現在	第5期 2022年4月11日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	68,333,383	48,274,491
投資信託受益証券	1,033,312,656	886,548,165
親投資信託受益証券	3,084,366,283	2,653,639,179
未収入金	7,902,000	2,395,000
流動資産合計	4,193,914,322	3,590,856,835
資産合計	4,193,914,322	3,590,856,835
負債の部		
流動負債		
未払解約金	22,759,686	3,569,128
未払受託者報酬	682,948	605,650
未払委託者報酬	19,920,709	17,666,211
その他未払費用	172,649	151,336
流動負債合計	43,535,992	21,992,325
負債合計	43,535,992	21,992,325
純資産の部		
元本等		
元本	1 3,471,510,654	1 3,251,915,691
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	678,867,676	316,948,819
（分配準備積立金）	548,108,249	464,145,104
元本等合計	4,150,378,330	3,568,864,510
純資産合計	4,150,378,330	3,568,864,510
負債純資産合計	4,193,914,322	3,590,856,835

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第4期		第5期	
	自	2020年4月11日 至 2021年4月12日	自	2021年4月13日 至 2022年4月11日
営業収益				
受取配当金		44,851,845		15,728,529
受取利息		175		7
有価証券売買等損益		788,700,293		292,013,595
営業収益合計		833,552,313		276,285,059
営業費用				
支払利息		16,369		9,912
受託者報酬		1,458,781		1,274,452
委託者報酬		42,550,301		37,174,049
その他費用		365,052		318,462
営業費用合計		44,390,503		38,776,875
営業利益又は営業損失（ ）		789,161,810		315,061,934
経常利益又は経常損失（ ）		789,161,810		315,061,934
当期純利益又は当期純損失（ ）		789,161,810		315,061,934
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		202,674,783		8,890,744
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		16,740,544		678,867,676
剰余金増加額又は欠損金減少額		94,276,768		96,422,604
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		94,276,768		96,422,604
剰余金減少額又は欠損金増加額		18,636,663		152,170,271
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		18,636,663		152,170,271
分配金		1 -		1 -
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		678,867,676		316,948,819

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第5期	
	自	至
	2021年4月13日	2022年4月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>(2)親投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。</p>	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間末日</p> <p>2021年4月10日及びその翌日が休日のため、前計算期間末日を2021年4月12日としており、2022年4月10日が休日のため、当計算期間末日を2022年4月11日としております。このため、当計算期間は364日となっております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第4期	第5期
	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
1. 1 期首元本額	4,603,066,021円	3,471,510,654円
期中追加設定元本額	755,467,855円	560,351,848円
期中一部解約元本額	1,887,023,222円	779,946,811円

2.	計算期間末日における受益権の総数	3,471,510,654口	3,251,915,691口
----	------------------	----------------	----------------

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

区 分	第4期	第5期
	自 2020年4月11日 至 2021年4月12日	自 2021年4月13日 至 2022年4月11日
1 分配金の計算過程	<p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（87,641,466円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（377,637,212円）、投資信託約款に規定される収益調整金（130,759,427円）及び分配準備積立金（82,829,571円）より分配対象額は678,867,676円（1万口当たり1,955.54円）であり、分配を行っておりません。</p>	<p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（30,973,440円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（145,728,825円）及び分配準備積立金（433,171,664円）より分配対象額は609,873,929円（1万口当たり1,875.43円）であり、分配を行っておりません。</p>

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	第5期
	自 2021年4月13日 至 2022年4月11日
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。</p>
2. 金融商品の内容及びリスク	<p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、為替変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。</p>

3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	第5期 2022年4月11日現在
	1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	第4期 2021年4月12日現在	第5期 2022年4月11日現在
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	当計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	253,139,933	100,641,838
親投資信託受益証券	318,510,534	192,799,738
合計	571,650,467	293,441,576

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

第4期 2021年4月12日現在	第5期 2022年4月11日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第5期 自 2021年4月13日 至 2022年4月11日

市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	第4期 2021年4月12日現在	第5期 2022年4月11日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.1956円 (11,956円)	1.0975円 (10,975円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	地方創生ファンド(FOFs用)(適格機関投資家専用)	815,516,664	886,548,165	
投資信託受益証券 合計			886,548,165	
親投資信託受益証券	ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド	797,570,674	875,573,085	
	四国応援マザーファンド	740,299,366	876,662,509	
	ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド	481,364,726	901,403,585	
親投資信託受益証券 合計			2,653,639,179	
合計			3,540,187,344	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは、「地方創生ファンド（F0Fs用）（適格機関投資家専用）」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「四国応援マザーファンド」受益証券、「ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド」受益証券及び「ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの計算期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「四国応援マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	5,049,054	4,184,165
株式	2 1,294,236,950	1,084,802,740
派生商品評価勘定	380,700	633,200
未収配当金	8,710,770	9,837,085
流動資産合計	1,308,377,474	1,099,457,190
資産合計	1,308,377,474	1,099,457,190
負債の部		
流動負債		
前受金	386,250	676,250
未払解約金	450,000	-
その他未払費用	5	-
流動負債合計	836,255	676,250
負債合計	836,255	676,250
純資産の部		
元本等		
元本	1 958,483,145	927,863,367
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	349,058,074	170,917,573
元本等合計	1,307,541,219	1,098,780,940
純資産合計	1,307,541,219	1,098,780,940

負債純資産合計	1,308,377,474	1,099,457,190
---------	---------------	---------------

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2021年4月13日 至 2022年4月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場(最終相場のないものについては、それに準ずる価額)、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。 なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>
2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法	<p>先物取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、原則として、計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場によっております。</p>
3. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、株式の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

区 分	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
1. 1 期首	2020年4月11日	2021年4月13日
期首元本額	1,666,647,278円	958,483,145円
期中追加設定元本額	99,021,969円	108,401,825円
期中一部解約元本額	807,186,102円	139,021,603円
期末元本額の内訳 ファンド名		

	四国アライアンス 地域創生 ファンド（年1回決算型）	747,051,832円	740,299,366円
	四国アライアンス 地域創生 ファンド（年2回決算型）	211,431,313円	187,564,001円
計		958,483,145円	927,863,367円
2.	期末日における受益権の総数	958,483,145口	927,863,367口
3.	2 差入委託証拠金代用有価証券	先物取引に係る差入委託証拠 金代用有価証券として以下の とおり差入を行っております。 株式 26,739,500円	先物取引に係る差入委託証拠 金代用有価証券として以下の とおり差入を行っております。 株式 24,101,500円

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 2021年4月13日 至 2022年4月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細をデリバティブ取引に関する注記及び附属明細表に記載しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。 信託財産の効率的な運用に資することを目的として、投資信託約款に従ってわが国の金融商品取引所（外国の取引所）における株価指数先物取引を利用しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。 デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2022年4月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
株式	277,205,961	188,483,940
合計	277,205,961	188,483,940

（注） 「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から期末日までの期間（2020年4月11日から2021年4月12日まで、及び2021年4月13日から2022年4月11日まで）を指しております。

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

株式関連

種 類	2021年4月12日 現在				2022年4月11日 現在			
	契約額等		時価 （円）	評価損益 （円）	契約額等		時価 （円）	評価損益 （円）
	（円）	うち 1年超			（円）	うち 1年超		
市場取引								
株価指数 先物取引								
買 建	9,413,750	-	9,795,000	381,250	8,813,750	-	9,447,500	633,750
合計	9,413,750	-	9,795,000	381,250	8,813,750	-	9,447,500	633,750

(注) 1. 時価の算定方法

株価指数先物取引の時価については、以下のように評価しております。

原則として期末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、期末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2. 株価指数先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。
4. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報)

	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
1口当たり純資産額	1.3642円	1.1842円
(1万口当たり純資産額)	(13,642円)	(11,842円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

銘柄	株式数	評価額(円)		備考
		単価	金額	
ホクト	900	1,974.00	1,776,600	
フィット	1,100	874.00	961,400	
日鉄鉱業	200	6,680.00	1,336,000	
三井住友建設	4,200	420.00	1,764,000	
東亜道路	100	4,845.00	484,500	
日本道路	300	7,520.00	2,256,000	
世紀東急	1,000	703.00	703,000	
四電工	4,200	1,699.00	7,135,800	
フィード・ワン	1,000	647.00	647,000	
セーラー広告	1,600	259.00	414,400	
かどや製油	200	3,640.00	728,000	
ハローズ	600	3,030.00	1,818,000	
日清紡ホールディングス	4,600	1,004.00	4,618,400	
倉敷紡績	500	1,702.00	851,000	
ありがとうサービス	200	2,075.00	415,000	
帝人	5,100	1,312.00	6,691,200	
東レ	42,100	609.90	25,676,790	
クラレ	9,200	1,009.00	9,282,800	
アクサスホールディングス	7,800	108.00	842,400	

ファインデックス	6,900	696.00	4,802,400
e B A S E	1,200	513.00	615,600
王子ホールディングス	26,200	592.00	15,510,400
大王製紙	43,600	1,540.00	67,144,000
ニッポン高度紙工業	2,800	2,160.00	6,048,000
レンゴー	7,000	740.00	5,180,000
住友化学	42,700	538.00	22,972,600
神島化学	200	1,658.00	331,600
東亜合成	3,300	1,080.00	3,564,000
大阪ソーダ	700	3,110.00	2,177,000
四国化成	14,200	1,297.00	18,417,400
田岡化学	500	1,039.00	519,500
大倉工業	3,200	1,794.00	5,740,800
ダイキアクシス	3,500	739.00	2,586,500
住友ファーマ	10,300	1,250.00	12,875,000
大塚ホールディングス	14,400	4,238.00	61,027,200
ジャストシステム	16,300	5,700.00	92,910,000
アース製薬	600	5,540.00	3,324,000
ニッタ	800	2,694.00	2,155,200
三ツ星ベルト	800	1,940.00	1,552,000
住友大阪セメント	1,000	3,215.00	3,215,000
太平洋セメント	3,100	1,959.00	6,072,900
日本興業	800	699.00	559,200
東洋炭素	500	2,887.00	1,443,500
丸一鋼管	2,400	2,789.00	6,693,600
新日本電工	3,800	323.00	1,227,400
三菱マテリアル	3,400	2,072.00	7,044,800
住友鉱山	7,500	6,174.00	46,305,000
三浦工業	31,000	2,691.00	83,421,000
N I T T O K U	500	2,228.00	1,114,000
エヌ・ピー・シー	600	451.00	270,600
技研製作所	7,300	3,610.00	26,353,000
住友重機械	3,200	2,677.00	8,566,400
井関農機	5,900	1,241.00	7,321,900
タダノ	33,400	955.00	31,897,000
兼松エンジニアリング	1,400	1,285.00	1,799,000
ジェイテクト	8,900	874.00	7,778,600
三菱電機	55,400	1,355.50	75,094,700
富士通	5,300	18,485.00	97,970,500
日本トリム	200	2,533.00	506,600

アオイ電子	3,100	2,018.00	6,255,800	
大真空	900	1,034.00	930,600	
新明和工業	1,800	888.00	1,598,400	
マルヨシセンター	200	2,761.00	552,200	
ダイコー通産	1,400	1,262.00	1,766,800	
ニホンフラッシュ	6,500	988.00	6,422,000	
セキ	300	1,700.00	510,000	
レック	1,000	856.00	856,000	
南海プライウッド	300	5,690.00	1,707,000	
リンテック	2,000	2,385.00	4,770,000	
ミロク	800	1,502.00	1,201,600	
ユニ・チャーム	22,300	4,331.00	96,581,300	
イオン	22,500	2,570.50	57,836,250	
フジ	13,400	2,089.00	27,992,600	
穴吹興産	3,000	2,217.00	6,651,000	
四国電力	57,600	766.00	44,121,600	
電源開発	4,700	1,724.00	8,102,800	
ヨンキュウ	1,700	2,191.00	3,724,700	
ジェコス	900	791.00	711,900	
合計			1,084,802,740	

（注） 先物取引に係る差入委託証拠金代用有価証券として以下の有価証券が差し入れられております。

三菱電機

5,000株 ユニ・チャーム

4,000株

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表（デリバティブ取引に関する注記）」に記載しております。

「地方創生ファンド（F0Fs用）（適格機関投資家専用）」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

ファンドの経理状況

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、第10期計算期間（2021年9月25日から2022年3月24日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

その監査報告書は、該当する財務諸表の直前に添付しております。

財務諸表

地方創生ファンド（F0Fs用）（適格機関投資家専用）

(1) 貸借対照表

	第9期	第10期
	2021年9月24日現在	2022年3月24日現在
	金額（円）	金額（円）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	5,064,423	4,361,000
親投資信託受益証券	1,283,689,348	1,146,037,148
未収入金	5,800,000	150,000
流動資産合計	1,294,553,771	1,150,548,148
資産合計	1,294,553,771	1,150,548,148
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	20,067,882	-
未払解約金	5,755,999	-
未払受託者報酬	143,797	126,584
未払委託者報酬	3,667,551	3,229,436
その他未払費用	35,862	31,568
流動負債合計	29,671,091	3,387,588
負債合計	29,671,091	3,387,588
純資産の部		
元本等		
元本	1 1,003,394,120	1,022,146,277
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	261,488,560	125,014,283

（分配準備積立金）	244,719,027	230,959,559
元本等合計	1,264,882,680	1,147,160,560
純資産合計	1,264,882,680	1,147,160,560
負債純資産合計	1,294,553,771	1,150,548,148

(2) 損益及び剰余金計算書

	第9期	第10期
	自 2021年3月25日 至 2021年9月24日	自 2021年9月25日 至 2022年3月24日
	金額（円）	金額（円）
営業収益		
受取利息	15	9
有価証券売買等損益	104,500,522	130,822,200
営業収益合計	104,500,537	130,822,191
営業費用		
支払利息	681	379
受託者報酬	143,797	126,584
委託者報酬	3,667,551	3,229,436
その他費用	35,866	31,568
営業費用合計	3,847,895	3,387,967
営業利益又は営業損失（ ）	100,652,642	134,210,158
経常利益又は経常損失（ ）	100,652,642	134,210,158
当期純利益又は当期純損失（ ）	100,652,642	134,210,158
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	8,106,304	3,990,387
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	204,461,398	261,488,560
剰余金増加額又は欠損金減少額	22,780,526	16,632,095
当期追加信託に伴う剰余金増加額 又は欠損金減少額	22,780,526	16,632,095
剰余金減少額又は欠損金増加額	38,231,820	22,886,601
当期一部解約に伴う剰余金減少額 又は欠損金増加額	38,231,820	22,886,601
分配金 1	20,067,882	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	261,488,560	125,014,283

(3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第10期	
	自 2021年9月25日	至 2022年3月24日
有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第9期	第10期
	2021年9月24日現在	2022年3月24日現在
1. 1 期首元本額	1,095,122,473円	1,003,394,120円
期中追加設定元本額	111,681,482円	107,140,914円
期中一部解約元本額	203,409,835円	88,388,757円
2. 計算期間末日における受益権の総数	1,003,394,120口	1,022,146,277口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	第9期	第10期
	自 2021年3月25日 至 2021年9月24日	自 2021年9月25日 至 2022年3月24日

1 分配金の計算過程	<p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(12,834,275円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(79,712,063円)、投資信託約款に規定される収益調整金(72,340,221円)及び分配準備積立金(172,240,571円)より分配対象額は337,127,130円(1万口当たり3,359.87円)であり、うち20,067,882円(1万口当たり200円)を分配金額としております。</p>	<p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(7,176,195円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(99,319,241円)及び分配準備積立金(223,783,364円)より分配対象額は330,278,800円(1万口当たり3,231.23円)であり、分配を行っておりません。</p>
------------	--	--

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	第10期 自 2021年9月25日 至 2022年3月24日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	<p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資しております。</p> <p>これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	---

金融商品の時価等に関する事項

区 分	第10期 2022年3月24日現在
	1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	第9期 2021年9月24日現在	第10期 2022年3月24日現在
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
親投資信託受益証券	96,032,411	126,917,142
合計	96,032,411	126,917,142

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

第9期 2021年9月24日現在	第10期 2022年3月24日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第10期 自 2021年9月25日 至 2022年3月24日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第9期 2021年9月24日現在	第10期 2022年3月24日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1,2606円 (12,606円)	1,1223円 (11,223円)

(4) 附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
親投資信託受益証券	地方創生マザーファンド	702,659,196	1,146,037,148	
親投資信託受益証券 合計			1,146,037,148	
合計			1,146,037,148	

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

参考情報

当ファンドは、「地方創生マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、当ファンドの計算期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「地方創生マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	2021年9月24日現在	2022年3月24日現在

	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	106,460,880	95,365,385
株式	2,715,190,000	2,397,897,500
未収入金	24,900,586	1,315,916
未収配当金	4,192,725	5,213,100
流動資産合計	2,850,744,191	2,499,791,901
資産合計	2,850,744,191	2,499,791,901
負債の部		
流動負債		
未払金	27,711,848	-
未払解約金	5,800,000	150,000
流動負債合計	33,511,848	150,000
負債合計	33,511,848	150,000
純資産の部		
元本等		
元本	1,541,245,603	1,532,587,497
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	1,275,986,740	967,054,404
元本等合計	2,817,232,343	2,499,641,901
純資産合計	2,817,232,343	2,499,641,901
負債純資産合計	2,850,744,191	2,499,791,901

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2021年9月25日 至 2022年3月24日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式

2. 収益及び費用の計上基準	<p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>受取配当金</p> <p>原則として、株式の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>
----------------	--

(貸借対照表に関する注記)

区 分	2021年9月24日現在	2022年3月24日現在
1. 1 期首	2021年3月25日	2021年9月25日
期首元本額	1,680,209,353円	1,541,245,603円
期中追加設定元本額	89,365,017円	76,819,152円
期中一部解約元本額	228,328,767円	85,477,258円
期末元本額の内訳		
ファンド名		
地方創生ファンド（FOFs用）	702,275,479円	702,659,196円
（適格機関投資家専用）		
北海道未来の夢創生ファンド	794,121,977円	782,493,334円
地方創生日本株ファンド	44,848,147円	47,434,967円
計	1,541,245,603円	1,532,587,497円
2. 期末日における受益権の総数	1,541,245,603口	1,532,587,497口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 2021年9月25日 至 2022年3月24日
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。</p>

2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2022年3月24日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	2021年9月24日現在	2022年3月24日現在
	当期間の損益に 含まれた評価差額（円）	当期間の損益に 含まれた評価差額（円）
株式	182,756,287	100,727,715
合計	182,756,287	100,727,715

（注） 「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から期末日までの期間（2021年3月25日から2021年9月24日まで、及び2021年3月25日から2022年3月24日まで）を指しております。

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

2021年9月24日現在	2022年3月24日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	2021年9月24日現在	2022年3月24日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.8279円 (18,279円)	1.6310円 (16,310円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

銘柄	株式数	評価額(円)		備考
		単価	金額	
ウエストホールディングス	10,000	4,745.00	47,450,000	
ピーアールホールディングス	56,000	332.00	18,592,000	
オリエンタル白石	44,100	240.00	10,584,000	
九電工	3,300	3,025.00	9,982,500	
NEC ネットエスアイ	7,000	1,799.00	12,593,000	
日本ハム	2,600	4,225.00	10,985,000	
日本駐車場開発	91,000	151.00	13,741,000	
SBSホールディングス	6,400	3,365.00	21,536,000	
ジャパンベストレスキューS	12,000	1,067.00	12,804,000	
WDBホールディングス	3,500	2,694.00	9,429,000	
パルグループHLDGS	8,300	1,495.00	12,408,500	
グンゼ	2,900	3,895.00	11,295,500	
物語コーポレーション	6,000	5,680.00	34,080,000	
富士紡ホールディングス	4,900	3,495.00	17,125,500	
トヨタ紡織	14,300	2,030.00	29,029,000	
マクニカ・富士エレHLDGS	7,600	2,625.00	19,950,000	
TOKAIホールディングス	25,300	892.00	22,567,600	
帝国繊維	6,100	1,795.00	10,949,500	
B E E N O S	8,000	2,000.00	16,000,000	
コスモス薬品	1,500	15,490.00	23,235,000	
シップヘルスケアHD	9,000	2,092.00	18,828,000	
ケイアイスター不動産	3,000	5,220.00	15,660,000	
ジェイ・エス・ビー	6,800	3,250.00	22,100,000	
コメダホールディングス	12,000	2,032.00	24,384,000	
セーレン	18,900	2,248.00	42,487,200	
ワコールホールディングス	5,200	1,935.00	10,062,000	

アイル	6,700	1,534.00	10,277,800	
ニッポン高度紙工業	5,500	2,143.00	11,786,500	
レンゴー	14,500	794.00	11,513,000	
クレハ	2,500	9,350.00	23,375,000	
日本曹達	5,700	3,515.00	20,035,500	
大阪ソーダ	4,000	3,180.00	12,720,000	
イビデン	8,200	6,160.00	50,512,000	
田岡化学	8,000	1,089.00	8,712,000	
大阪有機化学	11,700	3,070.00	35,919,000	
住友ベークライト	4,000	5,070.00	20,280,000	
旭有機材	9,000	2,060.00	18,540,000	
シーティーエス	23,500	833.00	19,575,500	
扶桑化学工業	6,000	4,245.00	25,470,000	
システムサポート	19,000	1,116.00	21,204,000	
日本新薬	1,600	8,640.00	13,824,000	
ロート製薬	6,000	3,940.00	23,640,000	
ミズホメディー	3,900	1,907.00	7,437,300	
ラウンドワン	9,000	1,414.00	12,726,000	
リゾートトラスト	13,300	2,186.00	29,073,800	
フルキャストホールディングス	5,400	2,460.00	13,284,000	
メック	5,900	3,390.00	20,001,000	
デクセリアルズ	16,000	3,285.00	52,560,000	
東洋炭素	9,000	3,095.00	27,855,000	
MARUWA	1,500	15,920.00	23,880,000	
フジインコーポレーテッド	4,200	6,870.00	28,854,000	
大和工業	5,700	3,900.00	22,230,000	
大紀アルミニウム	14,000	1,709.00	23,926,000	
リョービ	11,000	1,050.00	11,550,000	
アサヒHD	9,000	2,321.00	20,889,000	
三和ホールディングス	9,900	1,270.00	12,573,000	
タクマ	7,000	1,554.00	10,878,000	
シグマクス・ホールディング	10,800	2,346.00	25,336,800	
芝浦機械	6,000	3,375.00	20,250,000	
FUJI	7,000	2,314.00	16,198,000	
ベルシステム24HLDGS	14,800	1,350.00	19,980,000	
フリー	8,000	1,131.00	9,048,000	
タツモ	8,500	1,581.00	13,438,500	
ホソカワミクロン	8,000	2,686.00	21,488,000	
技研製作所	3,000	3,735.00	11,205,000	
TOWA	6,500	2,548.00	16,562,000	

タクミナ	4,000	1,204.00	4,816,000	
オルガノ	3,000	10,140.00	30,420,000	
栗田工業	5,400	4,690.00	25,326,000	
C K D	11,000	1,923.00	21,153,000	
Q D レーザ	15,000	602.00	9,030,000	
ダイヘン	2,900	4,335.00	12,571,500	
日東工業	11,500	1,616.00	18,584,000	
I D E C	11,800	2,640.00	31,152,000	
アドテックプラズマテクノ	5,800	2,725.00	15,805,000	
E I Z O	9,200	3,715.00	34,178,000	
ウシオ電機	7,500	1,894.00	14,205,000	
新光電気工業	5,000	5,590.00	27,950,000	
I H I	4,500	2,944.00	13,248,000	
武蔵精密工業	13,500	1,553.00	20,965,500	
太平洋工業	25,100	949.00	23,819,900	
良品計画	11,200	1,521.00	17,035,200	
第一興商	3,200	3,560.00	11,392,000	
S P K	9,000	1,366.00	12,294,000	
アズワン	1,600	7,470.00	11,952,000	
ネットワンシステムズ	4,000	2,866.00	11,464,000	
ワークマン	4,200	5,150.00	21,630,000	
アルゴグラフィックス	7,000	3,050.00	21,350,000	
ハンズマン	7,200	1,133.00	8,157,600	
スター精密	16,400	1,502.00	24,632,800	
マニー	10,000	1,471.00	14,710,000	
ニホンフラッシュ	22,000	1,008.00	22,176,000	
前田工織	11,800	3,145.00	37,111,000	
フルヤ金属	2,700	10,220.00	27,594,000	
萩原工業	9,300	1,141.00	10,611,300	
フジシールインターナショナル	10,500	1,679.00	17,629,500	
大建工業	6,000	2,299.00	13,794,000	
藤森工業	3,800	3,965.00	15,067,000	
アシックス	10,000	2,295.00	22,950,000	
ニチハ	3,600	2,604.00	9,374,400	
エフピコ	7,500	3,005.00	22,537,500	
グローブライド	3,400	2,836.00	9,642,400	
阪和興業	3,500	3,305.00	11,567,500	
ニプロ	11,000	1,044.00	11,484,000	
ゴ-ルドウイン	7,500	6,350.00	47,625,000	
丸井グループ	13,000	2,305.00	29,965,000	

アクシアル リテイリング	2,700	3,330.00	8,991,000	
イズミ	3,400	3,215.00	10,931,000	
京阪神ビルディング	16,300	1,547.00	25,216,100	
カチタス	3,500	3,620.00	12,670,000	
東祥	9,600	1,834.00	17,606,400	
青山財産ネットワークス	8,000	1,218.00	9,744,000	
南海電鉄	5,200	2,447.00	12,724,400	
山九	5,000	3,975.00	19,875,000	
九州旅客鉄道	4,600	2,669.00	12,277,400	
上組	5,400	2,259.00	12,198,600	
沖縄セルラー電話	2,400	5,000.00	12,000,000	
ファイバーゲート	5,100	1,233.00	6,288,300	
四国電力	19,000	848.00	16,112,000	
九州電力	18,000	870.00	15,660,000	
三協フロンテア	2,500	4,915.00	12,287,500	
東京都競馬	2,600	4,380.00	11,388,000	
シーイーシー	12,600	1,257.00	15,838,200	
カプコン	7,000	3,010.00	21,070,000	
福井コンピュータHLD S	3,500	3,285.00	11,497,500	
ダイセキ	10,000	4,875.00	48,750,000	
アークランドサカモト	14,000	1,524.00	21,336,000	
合計			2,397,897,500	

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

「ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
	金額(円)	金額(円)

資産の部		
流動資産		
預金	33,022,354	67,622,451
コール・ローン	15,643,539	30,107,833
国債証券	19,686,051,161	17,448,799,168
特殊債券	983,064,713	1,036,739,868
派生商品評価勘定	1,802,965	5,269,172
未収利息	174,681,193	181,390,361
前払費用	9,529,639	1,496,158
差入委託証拠金	129,949,239	140,511,000
流動資産合計	21,033,744,803	18,911,936,011
資産合計	21,033,744,803	18,911,936,011
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	1,290,858	4,048,800
未払解約金	14,826,681	14,763,412
その他未払費用	19	-
流動負債合計	16,117,558	18,812,212
負債合計	16,117,558	18,812,212
純資産の部		
元本等		
元本	1	11,224,863,833
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()		9,792,763,412
元本等合計		21,017,627,245
純資産合計		21,017,627,245
負債純資産合計		21,033,744,803

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2021年4月13日 至 2022年4月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券及び特殊債券

	<p>個別法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、又は価格情報会社の提供する価額等で評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>
<p>2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法</p>	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として計算日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。</p>
<p>3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p>	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

区 分	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
1. 1 期首	2020年4月11日	2021年4月13日
期首元本額	12,915,841,496円	11,224,863,833円
期中追加設定元本額	314,460,166円	142,343,936円
期中一部解約元本額	2,005,437,829円	1,278,040,289円
期末元本額の内訳 ファンド名		

ダイワF0Fs用外債ソブリン・オープン(適格機関投資家専用)	1,333,773,778円	1,261,944,595円
ダイワ外債ソブリン・オープン(毎月分配型)	687,099,086円	624,375,056円
ダイワ・バランス3資産(外債・海外リート・好配当日本株)	39,434,095円	42,724,594円
安定重視ポートフォリオ(奇数月分配型)	131,001,808円	132,773,966円
インカム重視ポートフォリオ(奇数月分配型)	234,144,396円	232,020,877円
成長重視ポートフォリオ(奇数月分配型)	353,734,955円	325,113,348円
京都応援バランスファンド(隔月分配型)	176,741,979円	154,614,169円
6資産バランスファンド(分配型)	818,849,699円	781,391,885円
6資産バランスファンド(成長型)	100,645,804円	103,741,839円
ダイワ海外ソブリン・ファンド(毎月分配型)	4,711,387,315円	4,075,374,459円
世界6資産均等分散ファンド(毎月分配型)	51,889,173円	42,898,749円
ダイワ外債ソブリン・ファンド(毎月分配型)	183,624,236円	168,084,230円
兵庫応援バランスファンド(毎月分配型)	717,138,027円	675,359,116円
『しがぎん』SRI三資産バランス・オープン(奇数月分配型)	15,858,903円	-円
ダイワ・株/債券/コモディティ・バランスファンド	180,277,386円	161,978,821円
ダイワ資産分散インカムオープン(奇数月決算型)	761,726,244円	687,997,720円
ダイワ海外ソブリン・ファンド(1年決算型)	20,229,599円	14,586,427円
四国アライアンス 地域創生ファンド(年1回決算型)	551,711,392円	481,364,726円
四国アライアンス 地域創生ファンド(年2回決算型)	155,595,958円	122,822,903円
計	11,224,863,833円	10,089,167,480円

2. 期末日における受益権の総数	11,224,863,833口	10,089,167,480口
------------------	-----------------	-----------------

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 2021年4月13日 至 2022年4月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細をデリバティブ取引に関する注記及び附属明細表に記載しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、為替変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。 信託財産の効率的な運用に資すること、および外貨建資産の売買代金等の受取りまたは支払いを目的として、投資信託約款に従って為替予約取引を利用しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。 デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2022年4月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
	当期間の損益に 含まれた評価差額(円)	当期間の損益に 含まれた評価差額(円)
国債証券	814,313,569	1,715,258,823
特殊債券	28,270,602	61,584,297
合計	842,584,171	1,776,843,120

(注) 「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から期末日までの期間(2020年10月13日から2021年4月12日まで、及び2021年10月12日から2022年4月11日まで)を指しております。

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

種 類	2021年4月12日 現在				2022年4月11日 現在			
	契約額等		時価 (円)	評価損益 (円)	契約額等		時価 (円)	評価損益 (円)
	(円)	うち 1年超			(円)	うち 1年超		
市場取引以外の 取引								
為替予約取引								
売 建	128,813,035	-	130,103,893	1,290,858	321,816,000	-	325,864,800	4,048,800
アメリカ・ドル	128,813,035	-	130,103,893	1,290,858	-	-	-	-
ユーロ	-	-	-	-	321,816,000	-	325,864,800	4,048,800
買 建	128,813,035	-	130,616,000	1,802,965	321,816,000	-	327,085,172	5,269,172
アメリカ・ドル	-	-	-	-	227,953,000	-	232,236,733	4,283,733
オーストラリ ア・ドル	-	-	-	-	93,863,000	-	94,848,439	985,439
ユーロ	128,813,035	-	130,616,000	1,802,965	-	-	-	-
合計	257,626,070	-	260,719,893	512,107	643,632,000	-	652,949,972	1,220,372

(注) 1. 時価の算定方法

(1) 期末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

期末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

期末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 期末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 期末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 期末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、期末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。

3. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報)

	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
1口当たり純資産額	1.8724円	1.8726円
(1万口当たり純資産額)	(18,724円)	(18,726円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	アメリカ・ドル	2.25% United States Treasury Note/Bond 20270815	7,207,800.000	7,010,666.670	
		1.125% United States Treasury Note/Bond 20400815	7,886,000.000	5,857,168.780	
		0.875% United States Treasury Note/Bond 20301115	22,707,400.000	19,512,241.740	

アメリカ・ドル 小計			アメリカ・ドル 32,380,077.190 (4,035,529,020)	
イギリス・ポンド		イギリス・ポンド	イギリス・ポンド	
	1.5% United Kingdom Gilt 20260722	4,320,000.000	4,316,803.200	
	1.625% United Kingdom Gilt 20281022	3,200,000.000	3,213,152.000	
	0.625% United Kingdom Gilt 20501022	600,000.000	434,670.000	
	0.25% United Kingdom Gilt 20310731	3,095,700.000	2,701,462.600	
	5% United Kingdom Gilt 20250307	2,515,900.000	2,758,256.640	
4.25% United Kingdom Gilt 20461207	1,000,000.000	1,448,180.000		
イギリス・ポンド 小計			イギリス・ポンド 14,872,524.440 (2,414,703,068)	
オーストラリア・ドル		オーストラリア・ドル	オーストラリア・ドル	
	4.75% AUSTRALIAN GOVERNMENT BOND 20270421	1,957,000.000	2,139,079.280	
	3.25% AUSTRALIAN GOVERNMENT BOND 20290421	2,900,000.000	2,970,209.000	
4.5% AUSTRALIAN GOVERNMENT BOND 20330421	19,000,000.000	21,710,350.000		
オーストラリア・ドル 小計			オーストラリア・ドル 26,819,638.280 (2,488,594,236)	
カナダ・ドル		カナダ・ドル	カナダ・ドル	
	3.5% CANADIAN GOVERNMENT BOND 20451201	1,500,000.000	1,728,780.000	
	2.75% CANADIAN GOVERNMENT BOND 20481201	1,700,000.000	1,749,725.000	
	1.5% CANADIAN GOVERNMENT BOND 20260601	3,703,000.000	3,551,917.600	
0.5% CANADIAN GOVERNMENT BOND 20301201	10,246,000.000	8,569,754.400		
カナダ・ドル 小計			カナダ・ドル	

			15,600,177.000 (1,543,793,516)	
スウェーデン・クローナ	1.5% SWEDISH GOVERNMENT BOND 20231113	スウェーデン・クローナ 13,630,000.000	スウェーデン・クローナ 13,785,109.400	
	1% SWEDISH GOVERNMENT BOND 20261112	14,230,000.000	14,039,033.400	
スウェーデン・クローナ 小計			スウェーデン・クローナ 27,824,142.800 (367,556,926)	
デンマーク・クローネ	4.5% DANISH GOVERNMENT BOND 20391115	デンマーク・クローネ 5,500,000.000	デンマーク・クローネ 8,534,185.000	
	1.75% DANISH GOVERNMENT BOND 20251115	20,200,000.000	21,050,622.000	
デンマーク・クローネ 小計			デンマーク・クローネ 29,584,807.000 (539,922,728)	
ノルウェー・クローネ	3% NORWEGIAN GOVERNMENT BOND 20240314	ノルウェー・クローネ 20,000,000.000	ノルウェー・クローネ 20,272,000.000	
ノルウェー・クローネ 小計			ノルウェー・クローネ 20,272,000.000 (290,092,320)	
ポーランド・ズロチ	2.25% Poland Government Bond 20241025	ポーランド・ズロチ 3,500,000.000	ポーランド・ズロチ 3,167,150.000	
	0.75% Poland Government Bond 20250425	6,000,000.000	5,094,000.000	
	1.25% Poland Government Bond 20301025	8,000,000.000	5,546,400.000	
	4% Poland Government Bond 20231025	2,100,000.000	2,039,898.000	
	2.75% Poland Government Bond 20280425	25,000,000.000	20,593,000.000	
ポーランド・ズロチ 小計			ポーランド・ズロチ 36,440,448.000	

				(1,067,133,011)
	ユーロ		ユーロ	ユーロ
	2.5% GERMAN GOVERNMENT BOND 20460815	695,000.000	971,283.350	
	3.25% FRENCH GOVERNMENT BOND 20450525	4,750,400.000	6,320,407.200	
	3.75% Belgium Government Bond 20450622	1,500,000.000	2,130,495.000	
	1% IRISH TREASURY 20260515	2,872,000.000	2,912,954.720	
	1.1% IRISH TREASURY 20290515	2,387,600.000	2,401,018.310	
	1.95% SPANISH GOVERNMENT BOND 20260430	8,660,000.000	9,011,509.400	
	1.4% SPANISH GOVERNMENT BOND 20280430	9,136,000.000	9,256,047.040	
	1.2% SPANISH GOVERNMENT BOND 20401031	800,000.000	699,136.000	
	SPANISH GOVERNMENT BOND 20260131	960,000.000	927,926.400	
	ユーロ 小計		ユーロ 34,630,777.420 (4,701,474,343)	
国債証券 合計			17,448,799,168 [17,448,799,168]	
特殊債券	カナダ・ドル	カナダ・ドル	カナダ・ドル	
	2.55% CANADA HOUSING TRUST 20250315	2,815,000.000	2,802,248.050	
	2.25% CANADA HOUSING TRUST 20251215	7,830,000.000	7,674,104.700	
	カナダ・ドル 小計		カナダ・ドル 10,476,352.750 (1,036,739,868)	
特殊債券 合計			1,036,739,868 [1,036,739,868]	
合計			18,485,539,036 [18,485,539,036]	

- (注) 1. 各種通貨毎の小計の欄における () 内の金額は、邦貨換算額であります。
2. 合計欄における [] 内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。
3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
アメリカ・ドル	国債証券 3銘柄	100%	21.8%
イギリス・ポンド	国債証券 6銘柄	100%	13.1%
オーストラリア・ドル	国債証券 3銘柄	100%	13.5%
カナダ・ドル	国債証券 4銘柄 特殊債券 2銘柄	100%	14.0%
スウェーデン・クローナ	国債証券 2銘柄	100%	2.0%
デンマーク・クローネ	国債証券 2銘柄	100%	2.9%
ノルウェー・クローネ	国債証券 1銘柄	100%	1.6%
ポーランド・ズロチ	国債証券 5銘柄	100%	5.8%
ユーロ	国債証券 9銘柄	100%	25.3%

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表（デリバティブ取引に関する注記）」に記載しております。

「ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
	金額（円）	金額（円）
資産の部		
流動資産		
預金	778,489,191	2,850,880,247
コール・ローン	527,317,892	1,645,536,035
国債証券	45,434,140,686	49,310,226,381
地方債証券	14,396,767,554	10,259,333,619
特殊債券	2,555,553,002	1,676,043,456
社債券	9,302,185,673	10,458,433,433
派生商品評価勘定	264,270,324	371,798,031
未収入金	-	5,313,864
未収利息	261,923,910	442,536,510
前払費用	78,482,689	10,266,436

差入委託証拠金		212,475,372	585,509,710
流動資産合計		73,811,606,293	77,615,877,722
資産合計		73,811,606,293	77,615,877,722
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定		96,634,365	513,987,500
未払金		644,326,817	4,672,439,718
未払解約金		2,452,000	-
その他未払費用		2,133	-
流動負債合計		743,415,315	5,186,427,218
負債合計		743,415,315	5,186,427,218
純資産の部			
元本等			
元本	1	61,775,558,656	65,974,683,308
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		11,292,632,322	6,454,767,196
元本等合計		73,068,190,978	72,429,450,504
純資産合計		73,068,190,978	72,429,450,504
負債純資産合計		73,811,606,293	77,615,877,722

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 2021年4月13日 至 2022年4月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券及び社債券</p> <p>個別法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、又は価格情報会社の提供する価額等で評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法	<p>(1)先物取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、原則として、計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場によっております。</p> <p>(2)為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、原則として計算日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

区 分	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
1. 1 期首	2020年4月11日	2021年4月13日
期首元本額	38,163,838,749円	61,775,558,656円
期中追加設定元本額	30,013,008,183円	19,302,589,151円
期中一部解約元本額	6,401,288,276円	15,103,464,499円
期末元本額の内訳		
ファンド名		
ネオ・ヘッジ付債券ファンド （FOFs用）（適格機関投資家 専用）	60,655,811,071円	64,977,332,063円
四国アライアンス 地域創生 ファンド（年1回決算型）	872,686,646円	797,570,674円
四国アライアンス 地域創生 ファンド（年2回決算型）	246,214,334円	198,933,966円

ワールド・アクティブ・ボンド・オープン（為替ヘッジあり）	846,605円	846,605円
計	61,775,558,656円	65,974,683,308円
2. 期末日における受益権の総数	61,775,558,656口	65,974,683,308口

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 2021年4月13日 至 2022年4月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細をデリバティブ取引に関する注記及び附属明細表に記載しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、為替変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。 信託財産の効率的な運用に資することを目的として、投資信託約款に従ってわが国の金融商品取引所（外国の取引所）における債券先物取引を利用しております。また、外貨建資産について為替変動リスクを回避すること、および外貨建資産の売買代金等の受取りまたは支払いを目的として、投資信託約款に従って為替予約取引を利用しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。 デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2022年4月11日現在
-----	--------------

1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
	当期間の損益に 含まれた評価差額（円）	当期間の損益に 含まれた評価差額（円）
国債証券	685,827,330	4,896,731,470
地方債証券	659,646,394	1,207,166,430
特殊債券	117,645,920	162,737,231
社債券	17,888,273	1,038,790,928
合計	1,445,231,371	7,305,426,059

（注） 「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から期末日までの期間（2020年6月16日から2021年4月12日まで、及び2021年6月16日から2022年4月11日まで）を指しております。

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

1. 債券関連

種 類	2021年4月12日 現在				2022年4月11日 現在			
	契約額等 （円）	うち 1年超	時価 （円）	評価損益 （円）	契約額等 （円）	うち 1年超	時価 （円）	評価損益 （円）
市場取引								
債券先物取引								
売 建	-	-	-	-	7,254,011,256	-	6,886,742,225	367,269,031
買 建	230,245,210	-	223,114,890	7,130,320	3,772,835,637	-	3,611,607,797	161,227,840

合計	230,245,210	-	223,114,890	7,130,320	11,026,846,893	-	10,498,350,022	206,041,191

(注) 1. 時価の算定方法

債券先物取引の時価については、以下のように評価しております。

原則として期末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、期末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

- 債券先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
- 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。また契約額等及び時価の邦貨換算は期末日の対顧客電信売買相場の仲値で行っております。
- 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

2. 通貨関連

種 類	2021年4月12日 現在				2022年4月11日 現在			
	契約額等		時価 (円)	評価損益 (円)	契約額等		時価 (円)	評価損益 (円)
	(円)	うち 1年超			(円)	うち 1年超		
市場取引以外の取引								
為替予約取引								
売 建	72,326,031,913	-	72,151,265,634	174,766,279	76,286,220,390	-	76,634,451,050	348,230,660
アメリカ・ドル	19,106,362,196	-	18,992,211,540	114,150,656	21,042,508,810	-	21,120,439,900	77,931,090
イギリス・ポンド	2,845,802,409	-	2,800,321,384	45,481,025	3,467,851,100	-	3,479,093,450	11,242,350
オーストラリア・ドル	6,106,487,640	-	6,068,786,460	37,701,180	6,565,882,620	-	6,578,455,300	12,572,680
カナダ・ドル	14,443,532,493	-	14,376,595,030	66,937,463	13,550,004,720	-	13,607,517,600	57,512,880
スウェーデン・クローナ	804,376,725	-	815,340,000	10,963,275	786,517,200	-	792,546,000	6,028,800
ポーランド・ズロチ	977,523,690	-	994,562,550	17,038,860	975,885,340	-	981,546,000	5,660,660
メキシコ・ペソ	272,803,640	-	274,076,140	1,272,500	2,606,744,160	-	2,628,331,200	21,587,040
ユーロ	27,769,143,120	-	27,829,372,530	60,229,410	27,290,826,440	-	27,446,521,600	155,695,160
合計	72,326,031,913	-	72,151,265,634	174,766,279	76,286,220,390	-	76,634,451,050	348,230,660

(注) 1. 時価の算定方法

(1) 期末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

期末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

期末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 期末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 期末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 期末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、期末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。

3. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報)

	2021年4月12日現在	2022年4月11日現在
1口当たり純資産額	1.1828円	1.0978円
(1万口当たり純資産額)	(11,828円)	(10,978円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	アメリカ・ドル	3.5% United States Treasury Note/Bond 20390215	アメリカ・ドル 1,000,000.000	アメリカ・ドル 1,090,230.000	
		2% United States Treasury Note/Bond 20500215	15,500,000.000	13,126,485.000	
		0.375% United States Treasury Note/Bond 20251231	33,000,000.000	30,192,360.000	
		1.875% United States Treasury Note/Bond 20410215	24,500,000.000	20,729,205.000	

	0.5% United States Treasury Note/Bond 20260228	49,000,000.000	44,842,350.000	
	4.5% Mexico Government International Bond 20290422	2,000,000.000	2,059,400.000	
アメリカ・ドル 小計			アメリカ・ドル 112,040,030.000 (13,963,548,939)	
イギリス・ポ ンド	0.375% United Kingdom Gilt 20301022	6,000,000.000	5,389,500.000	
	0.125% United Kingdom Gilt 20260130	5,000,000.000	4,745,750.000	
	0.625% United Kingdom Gilt 20501022	7,500,000.000	5,433,375.000	
イギリス・ポンド 小計			イギリス・ポンド 15,568,625.000 (2,527,721,955)	
オーストラ リア・ドル	1% AUSTRALIAN GOVERNMENT BOND 20311121	36,000,000.000	30,154,680.000	
オーストラリア・ドル 小計			オーストラリア・ドル 30,154,680.000 (2,798,052,756)	
カナダ・ドル	0.5% CANADIAN GOVERNMENT BOND 20231101	32,500,000.000	31,600,400.000	
カナダ・ドル 小計			カナダ・ドル 31,600,400.000 (3,127,175,584)	
ポーランド・ズ ロチ	1.25% Poland Government Bond 20301025	45,000,000.000	31,198,500.000	
ポーランド・ズロチ 小計			ポーランド・ズロチ 31,198,500.000 (913,626,234)	
メキシコ・ペソ	7.5% Mexican Bonos 20270603	43,000,000.000	40,912,780.000	
	8.5% Mexican Bonos 20290531	260,000,000.000	257,038,600.000	

	7.75% Mexican Bonos 20310529	120,000,000.000	112,831,200.000	
メキシコ・ペソ	小計		メキシコ・ペソ 410,782,580.000 (2,552,520,796)	
ユーロ		ユーロ	ユーロ	
	1.7% Belgium Government Bond 20500622	1,000,000.000	1,014,450.000	
	0.4% Belgium Government Bond 20400622	3,000,000.000	2,474,190.000	
	0.75% FRENCH GOVERNMENT BOND 20520525	6,000,000.000	4,757,640.000	
	0.5% FRENCH GOVERNMENT BOND 20400525	10,000,000.000	8,426,900.000	
	2.75% NETHERLANDS GOVERNMENT BOND 20470115	3,500,000.000	4,877,215.000	
	7.25% ITALIAN GOVERNMENT BOND 20261101	7,000,000.000	8,813,700.000	
	2% ITALIAN GOVERNMENT BOND 20251201	1,600,000.000	1,645,200.000	
	0.35% ITALIAN GOVERNMENT BOND 20250201	2,000,000.000	1,965,220.000	
	1.85% ITALIAN GOVERNMENT BOND 20250701	14,000,000.000	14,306,600.000	
	0.95% ITALIAN GOVERNMENT BOND 20300801	12,000,000.000	10,919,400.000	
	1.65% ITALIAN GOVERNMENT BOND 20301201	27,000,000.000	25,875,990.000	
	0.6% ITALIAN GOVERNMENT BOND 20310801	10,000,000.000	8,606,500.000	
	4.5% Italy Buoni Poliennali Del Tesoro 20260301	40,800,000.000	45,856,752.000	
	3.75% Italy Buoni Poliennali Del Tesoro 20240901	24,000,000.000	25,683,360.000	
	0.5% SPANISH GOVERNMENT BOND 20300430	2,000,000.000	1,867,820.000	
	1% SPANISH GOVERNMENT BOND 20501031	1,500,000.000	1,143,270.000	
	4.7% SPANISH GOVERNMENT BOND 20410730	3,000,000.000	4,331,940.000	
ユーロ	小計		ユーロ 172,566,147.000	

				(23,427,580,117)		
国債証券 合計				49,310,226,381	[49,310,226,381]	
地方債証券	カナダ・ドル		カナダ・ドル	カナダ・ドル		
		1.9% Province of Quebec Canada 20300901	42,000,000.000	37,903,740.000		
		2.9% ONTARIO PROVINCE 20280602	12,000,000.000	11,866,920.000		
		2.55% ONTARIO PROVINCE 20521202	19,000,000.000	15,841,440.000		
		1.55% BRITISH COLUMBIA 20310618	13,000,000.000	11,249,680.000		
		2.95% BRITISH COLUMBIA 20500618	19,000,000.000	17,379,490.000		
		2.2% Province of Alberta Canada 20260601	5,000,000.000	4,852,850.000		
	2.05% Province of Alberta Canada 20300601	5,000,000.000	4,577,400.000			
	カナダ・ドル 小計			カナダ・ドル 103,671,520.000 (10,259,333,619)		
地方債証券 合計				10,259,333,619	[10,259,333,619]	
特殊債券	イギリス・ポンド		イギリス・ポンド	イギリス・ポンド		
		1.625% BNG Bank NV 20250826	2,500,000.000	2,470,400.000		
	イギリス・ポンド 小計				イギリス・ポンド 2,470,400.000 (401,094,144)	
	ユーロ		ユーロ	ユーロ		
European Union 20310704		10,500,000.000	9,391,200.000			
	ユーロ 小計			ユーロ 9,391,200.000 (1,274,949,312)		
特殊債券 合計				1,676,043,456	[1,676,043,456]	
社債券	アメリカ・ドル	FR 2.301% JPMorgan Chase & Co 20251015	アメリカ・ドル 1,000,000.000	アメリカ・ドル 971,590.000		

3.875% GlaxoSmithKline Capital Inc 20280515	1,500,000.000	1,540,350.000	
3.5% HSBC USA Inc 20240623	300,000.000	301,782.000	
3.25% Credit Agricole SA/London 20241004	1,000,000.000	995,810.000	
3% MetLife Inc 20250301	300,000.000	299,724.000	
2.4% Microsoft Corp 20260808	1,000,000.000	977,820.000	
3.3% International Business Machines Corp 20260515	1,000,000.000	997,660.000	
FR 1.15786% American Express Co 20230227	1,500,000.000	1,504,395.000	
FR 4.254% MIZUHO FINANCIAL GROUP INC 20290911	2,000,000.000	2,020,580.000	
4.375% BNP Paribas SA 20250928	2,000,000.000	2,013,060.000	
2.275% Exxon Mobil Corp 20260816	2,000,000.000	1,933,620.000	
3.777% Mitsubishi UFJ Financial Group Inc 20250302	1,000,000.000	1,013,840.000	
FR 2.309% MITSUBISHI UFJ FINANCIAL GROUP INC 20320720	2,000,000.000	1,729,260.000	
3.1% Boeing Co/The 20260501	2,000,000.000	1,935,020.000	
1.902% SUMITOMO MITSUI FINANCIAL GROUP INC 20280917	2,500,000.000	2,200,275.000	
4.3% HSBC Holdings PLC 20260308	2,000,000.000	2,031,700.000	
FR 4.583% HSBC HOLDINGS PLC 20290619	1,000,000.000	1,018,590.000	
3.8% McDonald's Corp 20280401	1,500,000.000	1,523,940.000	
3.3% Caterpillar Financial Services Corp 20240609	650,000.000	656,409.000	
2.25% John Deere Capital Corp 20260914	2,000,000.000	1,930,500.000	
3.875% CITIGROUP INC 20250326	500,000.000	505,690.000	
FR 3.887% CITIGROUP INC 20280110	2,000,000.000	1,991,460.000	
3.2% CITIGROUP INC 20261021	1,500,000.000	1,465,455.000	
FR 3.593% BANK OF AMERICA CORP. 20280721	3,000,000.000	2,952,780.000	

	4.125% Wells Fargo & Co 20230815	200,000.000	203,652.000	
	4.1% Wells Fargo & Co 20260603	3,000,000.000	3,038,130.000	
	3.75% MORGAN STANLEY 20230225	200,000.000	202,782.000	
	3.875% MORGAN STANLEY 20260127	1,000,000.000	1,007,530.000	
	4% GOLDMAN SACHS GROUP INC. 20240303	200,000.000	203,280.000	
	3.5% GOLDMAN SACHS GROUP INC. 20250401	2,000,000.000	1,998,000.000	
	FR 4.223% GOLDMAN SACHS GROUP INC. 20290501	1,000,000.000	1,010,120.000	
	3.375% BPCE SA 20261202	1,000,000.000	986,820.000	
	4.5% BPCE SA 20250315	1,000,000.000	1,006,190.000	
	4.8% ABN AMRO Bank NV 20260418	1,000,000.000	1,017,820.000	
	4.2% Mizuho Financial Group Cayman 2 Ltd 20220718	500,000.000	502,880.000	
アメリカ・ドル	小計		アメリカ・ドル 45,688,514.000 (5,694,159,500)	
イギリス・ポンド		イギリス・ボンド	イギリス・ボンド	
	5.25% Cooperatieve Rabobank UA 20270914	1,500,000.000	1,637,235.000	
	6.625% Aegon NV 20391216	200,000.000	290,084.000	
	3.75% InterContinental Hotels Group PLC 20250814	1,000,000.000	1,019,510.000	
イギリス・ポンド	小計		イギリス・ポンド 2,946,829.000 (478,447,157)	
オーストラリア・ドル		オーストラリア・ドル	オーストラリア・ドル	
	FR 4.215% JPMorgan Chase & Co 20290522	2,000,000.000	1,954,820.000	
	FR 2.9% Standard Chartered PLC 20250628	2,000,000.000	1,967,860.000	
	4.4% CREDIT AGRICOLE SA/LONDON 20270706	3,000,000.000	2,951,640.000	
	4.6% AT&T Inc 20280919	4,300,000.000	4,368,241.000	

	FR 4.2% Credit Agricole SA 20340529	2,000,000.000	1,888,200.000	
	4.7% Societe Generale SA 20280920	1,000,000.000	965,740.000	
	4.875% Societe Generale SA 20261013	2,000,000.000	1,984,620.000	
	5.244% Barclays PLC 20280615	2,000,000.000	2,031,860.000	
	4% Barclays PLC 20290626	2,000,000.000	1,862,360.000	
	4.75% Lloyds Banking Group PLC 20280523	2,000,000.000	2,006,840.000	
	4.5% Verizon Communications Inc 20270817	3,500,000.000	3,534,475.000	
	2.35% VERIZON COMMUNICATIONS INC 20280323	2,000,000.000	1,768,640.000	
	3.6% Apple Inc 20260610	1,400,000.000	1,409,786.000	
	4.5% BPCE SA 20280426	3,500,000.000	3,465,525.000	
	4.2% VODAFONE GROUP 20271213	2,000,000.000	1,990,780.000	
	4.2% AusNet Services Holdings Pty Ltd 20280821	1,800,000.000	1,768,554.000	
	オーストラリア・ドル 小計		オーストラリア・ドル 35,919,941.000 (3,333,011,325)	
	スウェーデン・ クローナ		スウェーデン・クローナ	
	1.25% Lansforsakringar Hypotek AB 20250917	60,000,000.000	58,770,600.000	
	スウェーデン・クローナ 小計		スウェーデン・クローナ 58,770,600.000 (776,359,626)	
	ユーロ		ユーロ	
	0.95% International Business Machines Corp 20250523	1,000,000.000	998,770.000	
	1% BMW FINANCE NV 20250121	300,000.000	300,993.000	
	ユーロ 小計		ユーロ 1,299,763.000 (176,455,825)	
社債券 合計			10,458,433,433 [10,458,433,433]	
合計			71,704,036,889 [71,704,036,889]	

- (注) 1. 各種通貨毎の小計の欄における()内の金額は、邦貨換算額であります。
2. 合計欄における[]内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。
3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
アメリカ・ドル	国債証券 6銘柄	100%	27.4%
	社債券 35銘柄		
イギリス・ポンド	国債証券 3銘柄	100%	4.8%
	特殊債券 1銘柄		
	社債券 3銘柄		
オーストラリア・ドル	国債証券 1銘柄	100%	8.6%
	社債券 16銘柄		
カナダ・ドル	国債証券 1銘柄	100%	18.7%
	地方債証券 7銘柄		
スウェーデン・クローナ	社債券 1銘柄	100%	1.1%
ポーランド・ズロチ	国債証券 1銘柄	100%	1.3%
メキシコ・ペソ	国債証券 3銘柄	100%	3.6%
ユーロ	国債証券 17銘柄	100%	34.5%
	特殊債券 1銘柄		
	社債券 2銘柄		

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。

(1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間（2022年4月12日から2022年10月11日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により中間監査を受けております。

【中間財務諸表】

四国アライアンス 地域創生ファンド（年1回決算型）

(1)【中間貸借対照表】

（単位：円）

当中間計算期間末 2022年10月11日現在	
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	45,719,387
投資信託受益証券	896,936,693
親投資信託受益証券	2,594,730,668
未収入金	895,000
流動資産合計	3,538,281,748
資産合計	3,538,281,748
負債の部	
流動負債	
未払解約金	564,720
未払受託者報酬	590,523
未払委託者報酬	17,224,784
その他未払費用	147,552
流動負債合計	18,527,579
負債合計	18,527,579
純資産の部	
元本等	
元本	1 3,332,890,596
剰余金	
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	186,863,573
（分配準備積立金）	439,443,470
元本等合計	3,519,754,169
純資産合計	3,519,754,169
負債純資産合計	3,538,281,748

(2)【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	当中間計算期間 自 2022年4月12日 至 2022年10月11日
営業収益	
受取利息	3
有価証券売買等損益	117,087,983
営業収益合計	117,087,980
営業費用	
支払利息	4,902
受託者報酬	590,523
委託者報酬	17,224,784
その他費用	147,552
営業費用合計	17,967,761
営業損失（ ）	135,055,741
経常損失（ ）	135,055,741
中間純損失（ ）	135,055,741
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	1,608,640
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	316,948,819
剰余金増加額又は欠損金減少額	20,811,626
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	20,811,626
剰余金減少額又は欠損金増加額	17,449,771
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	17,449,771
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	186,863,573

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当中間計算期間 自 2022年4月12日 至 2022年10月11日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>(2)親投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>

(中間貸借対照表に関する注記)

区 分	当中間計算期間末 2022年10月11日現在
1. 1 期首元本額	3,251,915,691円
期中追加設定元本額	261,017,460円
期中一部解約元本額	180,042,555円
2. 中間計算期間末日における 受益権の総数	3,332,890,596口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	当中間計算期間 自 2022年4月12日 至 2022年10月11日
	該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当中間計算期間末 2022年10月11日現在
1. 金融商品の時価及び中間貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

当中間計算期間末 2022年10月11日現在
該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	当中間計算期間末 2022年10月11日現在
1口当たり純資産額	1.0561円
（1万口当たり純資産額）	（10,561円）

（参考）

当ファンドは、「地方創生ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用）」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「四国応援マザーファンド」受益証券、「ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド」受益証券及び「ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの中間計算期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「四国応援マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	2022年10月11日現在	
	金額（円）	
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		11,471,158
株式	2	1,059,917,250
未収配当金		9,159,200
流動資産合計		1,080,547,608
資産合計		1,080,547,608
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定		128,520
前受金		113,750
未払解約金		1,136,000
流動負債合計		1,378,270
負債合計		1,378,270
純資産の部		
元本等		
元本	1	970,099,648
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		109,069,690
元本等合計		1,079,169,338
純資産合計		1,079,169,338
負債純資産合計		1,080,547,608

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 2022年4月12日 至 2022年10月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式

	<p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>
2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法	<p>先物取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として、計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場によっております。</p>
3. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、株式の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

区 分	2022年10月11日現在	
1. 1 期首	2022年4月12日	
期首元本額	927,863,367円	
期中追加設定元本額	69,187,416円	
期中一部解約元本額	26,951,135円	
期末元本額の内訳		
ファンド名		
四国アライアンス 地域創生	788,536,196円	
ファンド(年1回決算型)		
四国アライアンス 地域創生	181,563,452円	
ファンド(年2回決算型)		
計	970,099,648円	
2. 期末日における受益権の総数	970,099,648口	
3. 2 差入委託証拠金代用有価証券	先物取引に係る差入委託証拠金代用有価証券として以下のとおり差入を行っております。	
	株式	24,888,500円

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2022年10月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

株式関連

種 類	2022年10月11日 現在			
	契約額等 (円)	うち 1年超	時価 (円)	評価損益 (円)
市場取引				
株価指数 先物取引				
買 建	13,224,750	-	13,097,000	127,750
合計	13,224,750	-	13,097,000	127,750

（注） 1. 時価の算定方法

株価指数先物取引の時価については、以下のように評価しております。

原則として期末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、期末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2. 株価指数先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。
4. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

（1口当たり情報）

	2022年10月11日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.1124円 (11,124円)

「地方創生ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用）」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

ファンドの経理状況

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、第11期計算期間（2022年3月25日から2022年9月26日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

その監査報告書は、該当する財務諸表の直前に添付しております。

財務諸表

地方創生ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用）

貸借対照表

	第10期 2022年3月24日現在	第11期 2022年9月26日現在
	金額（円）	金額（円）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	4,361,000	4,275,009
親投資信託受益証券	1,146,037,148	1,068,477,554
未収入金	150,000	7,320,000
流動資産合計	1,150,548,148	1,080,072,563
資産合計	1,150,548,148	1,080,072,563
負債の部		
流動負債		

未払解約金	-	7,156,999
未払受託者報酬	126,584	124,805
未払委託者報酬	3,229,436	3,183,858
その他未払費用	31,568	31,119
流動負債合計	3,387,588	10,496,781
負債合計	3,387,588	10,496,781
純資産の部		
元本等		
元本	1	1,022,146,277
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	125,014,283	112,310,870
（分配準備積立金）	230,959,559	217,998,141
元本等合計	1,147,160,560	1,069,575,782
純資産合計	1,147,160,560	1,069,575,782
負債純資産合計	1,150,548,148	1,080,072,563

損益及び剰余金計算書

	第10期	第11期
	自 2021年9月25日 至 2022年3月24日	自 2022年3月25日 至 2022年9月26日
	金額（円）	金額（円）
営業収益		
受取利息	9	9
有価証券売買等損益	130,822,200	730,406
営業収益合計	130,822,191	730,415
営業費用		
支払利息	379	438
受託者報酬	126,584	124,805
委託者報酬	3,229,436	3,183,858
その他費用	31,568	31,119
営業費用合計	3,387,967	3,340,220
営業損失（ ）	134,210,158	2,609,805
経常損失（ ）	134,210,158	2,609,805
当期純損失（ ）	134,210,158	2,609,805
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	3,990,387	740,963
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	261,488,560	125,014,283
剰余金増加額又は欠損金減少額	16,632,095	2,905,968

当期追加信託に伴う剰余金増加額 又は欠損金減少額		16,632,095	2,905,968
剰余金減少額又は欠損金増加額		22,886,601	12,258,613
当期一部解約に伴う剰余金減少額 又は欠損金増加額		22,886,601	12,258,613
分配金	1	-	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		125,014,283	112,310,870

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	第11期	
	自 2022年3月25日	至 2022年9月26日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間末日 2022年9月24日及びその翌日が休日のため、当計算期間末日を2022年9月26日としております。このため、当計算期間は186日となっております。	

（貸借対照表に関する注記）

区 分	第10期	第11期
	2022年3月24日現在	2022年9月26日現在
1. 1 期首元本額	1,003,394,120円	1,022,146,277円
期中追加設定元本額	107,140,914円	36,266,036円
期中一部解約元本額	88,388,757円	101,147,401円
2. 計算期間末日における受益権の総数	1,022,146,277口	957,264,912口

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

区 分	第10期	第11期
	自 2021年9月25日 至 2022年3月24日	自 2022年3月25日 至 2022年9月26日
1 分配金の計算過程	<p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（7,176,195円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（99,319,241円）及び分配準備積立金（223,783,364円）より分配対象額は330,278,800円（1万口当たり3,231.23円）であり、分配を行っておりません。</p>	<p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（9,317,372円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（100,658,385円）及び分配準備積立金（208,680,769円）より分配対象額は318,656,526円（1万口当たり3,328.82円）であり、分配を行っておりません。</p>

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	第11期 自 2022年3月25日 至 2022年9月26日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	<p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資しております。</p> <p>これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	第11期
	2022年9月26日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	第10期	第11期
	2022年3月24日現在	2022年9月26日現在
	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	126,917,142	244,102
合計	126,917,142	244,102

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

第10期	第11期
2022年3月24日現在	2022年9月26日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第11期
自 2022年3月25日
至 2022年9月26日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第10期	第11期
	2022年3月24日現在	2022年9月26日現在

1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.1223円 (11,223円)	1.1173円 (11,173円)
---------------------------	----------------------	----------------------

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
親投資信託受益証券	地方創生マザーファンド	656,030,917	1,068,477,554	
親投資信託受益証券 合計			1,068,477,554	
合計			1,068,477,554	

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

参考情報

当ファンドは、「地方創生マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、当ファンドの計算期間末日(以下、「期末日」)における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「地方創生マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	2022年3月24日現在	2022年9月26日現在
--	--------------	--------------

	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	95,365,385	120,434,024
株式	2,397,897,500	2,312,234,600
未収入金	1,315,916	1,821,993
未収配当金	5,213,100	2,981,750
流動資産合計	2,499,791,901	2,437,472,367
資産合計	2,499,791,901	2,437,472,367
負債の部		
流動負債		
未払解約金	150,000	7,340,500
流動負債合計	150,000	7,340,500
負債合計	150,000	7,340,500
純資産の部		
元本等		
元本	1	1,532,587,497
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	967,054,404	938,068,760
元本等合計	2,499,641,901	2,430,131,867
純資産合計	2,499,641,901	2,430,131,867
負債純資産合計	2,499,791,901	2,437,472,367

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2022年3月25日 至 2022年9月26日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式

2. 収益及び費用の計上基準	<p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>受取配当金</p> <p>原則として、株式の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>
----------------	--

(貸借対照表に関する注記)

区 分	2022年3月24日現在	2022年9月26日現在
1. 1 期首	2021年9月25日	2022年3月25日
期首元本額	1,541,245,603円	1,532,587,497円
期中追加設定元本額	76,819,152円	33,026,947円
期中一部解約元本額	85,477,258円	73,551,337円
期末元本額の内訳		
ファンド名		
地方創生ファンド（FOFs用）	702,659,196円	656,030,917円
（適格機関投資家専用）		
北海道未来の夢創生ファンド	782,493,334円	782,493,334円
地方創生日本株ファンド	47,434,967円	53,538,856円
計	1,532,587,497円	1,492,063,107円
2. 期末日における受益権の総数	1,532,587,497口	1,492,063,107口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 2022年3月25日 至 2022年9月26日
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。</p>

2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2022年9月26日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	2022年3月24日現在	2022年9月26日現在
	当期間の損益に 含まれた評価差額（円）	当期間の損益に 含まれた評価差額（円）
株式	100,727,715	12,710,699
合計	100,727,715	12,710,699

(注) 「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から期末日までの期間（2021年3月25日から2022年3月24日まで、及び2022年3月25日から2022年9月26日まで）を指しております。

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

2022年3月24日現在	2022年9月26日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	2022年3月24日現在	2022年9月26日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.6310円 (16,310円)	1.6287円 (16,287円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

銘柄	株式数	評価額(円)		備考
		単価	金額	
ウエストホールディングス	10,000	4,350.00	43,500,000	
ダイセキ環境ソリューション	8,000	860.00	6,880,000	
ピーアールホールディングス	56,000	334.00	18,704,000	
リンクアンドモチベーション	41,000	741.00	30,381,000	
寿スピリッツ	3,000	8,170.00	24,510,000	
総合警備保障	3,000	3,635.00	10,905,000	
SBSホールディングス	6,400	2,927.00	18,732,800	
ジャパンベストレスキューS	12,000	708.00	8,496,000	
WDBホールディングス	3,500	2,414.00	8,449,000	
ライフドリンクカンパニー	8,000	1,469.00	11,752,000	
パルグループHLDGS	8,300	2,315.00	19,214,500	
グンゼ	2,900	3,820.00	11,078,000	
マツキヨココカラ&カンパニー	3,000	6,020.00	18,060,000	
物語コーポレーション	6,000	7,030.00	42,180,000	
三越伊勢丹HD	22,000	1,215.00	26,730,000	
富士紡ホールディングス	4,900	3,315.00	16,243,500	
ダイワボウHD	10,000	1,865.00	18,650,000	
トヨタ紡織	13,300	1,823.00	24,245,900	
マクニカホールディングス	7,600	2,703.00	20,542,800	
ネクステージ	7,000	3,235.00	22,645,000	
帝国繊維	8,000	1,562.00	12,496,000	
B E E N O S	10,000	2,405.00	24,050,000	
コスモス薬品	1,500	13,920.00	20,880,000	
シップヘルスケアHD	9,000	2,612.00	23,508,000	
ジェイ・エス・ビー	6,800	3,705.00	25,194,000	

コメダホールディングス	12,000	2,357.00	28,284,000	
セーレン	19,000	2,013.00	38,247,000	
ワコールホールディングス	5,200	2,187.00	11,372,400	
T I S	3,000	3,820.00	11,460,000	
アイル	6,700	1,633.00	10,941,100	
ニッポン高度紙工業	5,500	2,050.00	11,275,000	
レンゴー	29,000	850.00	24,650,000	
テイカ	10,000	1,233.00	12,330,000	
日本曹達	5,700	4,410.00	25,137,000	
大阪ソーダ	6,000	3,840.00	23,040,000	
イビデン	9,000	4,270.00	38,430,000	
第一稀元素化学工	10,000	1,262.00	12,620,000	
四国化成	9,000	1,232.00	11,088,000	
大阪有機化学	11,700	2,124.00	24,850,800	
住友ベークライト	4,000	4,020.00	16,080,000	
旭有機材	9,000	2,162.00	19,458,000	
プロトコーポレーション	10,000	1,064.00	10,640,000	
シーティーエス	23,500	714.00	16,779,000	
扶桑化学工業	6,000	3,195.00	19,170,000	
日本新薬	3,000	7,100.00	21,300,000	
ラウンドワン	15,000	2,034.00	30,510,000	
リゾートトラスト	13,300	2,337.00	31,082,100	
オリコン	14,000	925.00	12,950,000	
フルキャストホールディングス	5,400	2,535.00	13,689,000	
メック	11,000	2,206.00	24,266,000	
デクセリアルズ	17,000	3,615.00	61,455,000	
日本特殊陶業	5,000	2,770.00	13,850,000	
M A R U W A	3,000	16,900.00	50,700,000	
フジミインコーポレーテッド	1,900	5,960.00	11,324,000	
合同製鐵	8,000	1,768.00	14,144,000	
共英製鋼	8,000	1,464.00	11,712,000	
大和工業	5,700	4,480.00	25,536,000	
山陽特殊製鋼	9,000	1,937.00	17,433,000	
栗本鉄工所	6,000	1,604.00	9,624,000	
日本製鋼所	6,000	2,929.00	17,574,000	
大紀アルミニウム	18,000	1,233.00	22,194,000	
三和ホールディングス	9,900	1,290.00	12,771,000	
タクマ	14,000	1,249.00	17,486,000	
シグマクシス・ホールディング	21,600	1,138.00	24,580,800	
芝浦機械	7,000	2,728.00	19,096,000	

ベルシステム24HLDGS	14,800	1,383.00	20,468,400	
フリー	18,000	999.00	17,982,000	
タツモ	14,000	1,292.00	18,088,000	
ホソカワミクロン	8,000	2,458.00	19,664,000	
オルガノ	2,700	8,690.00	23,463,000	
栗田工業	5,400	5,220.00	28,188,000	
CKD	6,000	1,780.00	10,680,000	
明電舎	6,000	2,003.00	12,018,000	
ダイヘン	4,000	3,800.00	15,200,000	
IDEC	9,000	2,995.00	26,955,000	
EIZO	9,200	3,665.00	33,718,000	
マクセル	13,000	1,394.00	18,122,000	
堀場製作所	3,000	5,730.00	17,190,000	
オプテックスグループ	9,000	2,078.00	18,702,000	
ウシオ電機	11,000	1,532.00	16,852,000	
新光電気工業	5,000	3,295.00	16,475,000	
ニチコン	9,000	1,418.00	12,762,000	
IHI	4,500	3,385.00	15,232,500	
武蔵精密工業	13,500	1,619.00	21,856,500	
太平洋工業	25,100	1,032.00	25,903,200	
豊田合成	8,000	2,224.00	17,792,000	
第一興商	5,300	4,070.00	21,571,000	
アズワン	1,600	5,650.00	9,040,000	
アルゴグラフィックス	3,000	3,725.00	11,175,000	
マニー	15,000	1,722.00	25,830,000	
前田工織	12,000	3,160.00	37,920,000	
フルヤ金属	2,700	8,470.00	22,869,000	
SHOEI	5,000	5,140.00	25,700,000	
大建工業	6,000	1,870.00	11,220,000	
アシックス	10,000	2,339.00	23,390,000	
エフピコ	8,000	3,415.00	27,320,000	
グロープライド	10,000	2,332.00	23,320,000	
阪和興業	6,000	3,495.00	20,970,000	
ゴ-ルドウイン	7,500	7,640.00	57,300,000	
サンゲツ	7,000	1,604.00	11,228,000	
丸井グループ	9,000	2,442.00	21,978,000	
京阪神ビルディング	16,300	1,236.00	20,146,800	
カチタス	3,500	3,195.00	11,182,500	
東祥	9,600	1,194.00	11,462,400	
青山財産ネットワークス	8,000	903.00	7,224,000	

鴻池運輸	9,000	1,396.00	12,564,000	
九州旅客鉄道	4,600	3,115.00	14,329,000	
上組	5,400	2,698.00	14,569,200	
光通信	1,000	17,350.00	17,350,000	
ファイバーゲート	5,100	884.00	4,508,400	
東京都競馬	2,600	4,065.00	10,569,000	
カプコン	8,000	3,610.00	28,880,000	
ダイセキ	10,000	4,385.00	43,850,000	
アーケランズ	14,000	1,450.00	20,300,000	
合計			2,312,234,600	

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

「ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	2022年10月11日現在
	金額(円)
資産の部	
流動資産	
預金	89,468,191
コール・ローン	8,414,065
国債証券	15,568,484,720
特殊債券	1,072,357,184
派生商品評価勘定	9,268,252
未収利息	147,436,659
前払費用	4,558,139
差入委託証拠金	155,685,251

流動資産合計		17,055,672,461
資産合計		17,055,672,461
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定		8,257,034
未払解約金		8,983,040
流動負債合計		17,240,074
負債合計		17,240,074
純資産の部		
元本等		
元本	1	9,446,769,758
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		7,591,662,629
元本等合計		17,038,432,387
純資産合計		17,038,432,387
負債純資産合計		17,055,672,461

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 2022年4月12日 至 2022年10月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券及び特殊債券</p> <p>個別法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、又は価格情報会社の提供する価額等で評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>
2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法	為替予約取引

3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として計算日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。</p> <p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>
----------------------------	---

（貸借対照表に関する注記）

区 分	2022年10月11日現在
1. 1 期首	2022年4月12日
期首元本額	10,089,167,480円
期中追加設定元本額	78,381,751円
期中一部解約元本額	720,779,473円
期末元本額の内訳	
ファンド名	
ダイワF0Fs用外債ソブリン・オープン（適格機関投資家専用）	1,234,192,743円
ダイワ外債ソブリン・オープン（毎月分配型）	585,760,492円
ダイワ・バランス3資産（外債・海外リート・好配当日本株）	42,859,808円
安定重視ポートフォリオ（奇数月分配型）	130,606,724円
インカム重視ポートフォリオ（奇数月分配型）	226,645,293円
成長重視ポートフォリオ（奇数月分配型）	316,647,469円

6 資産バランスファンド(分配型)	734,289,270円
6 資産バランスファンド(成長型)	101,527,334円
ダイワ海外ソブリン・ファンド(毎月分配型)	3,791,538,176円
世界6資産均等分散ファンド(毎月分配型)	41,315,078円
ダイワ外債ソブリン・ファンド(毎月分配型)	148,487,600円
兵庫応援バランスファンド(毎月分配型)	663,823,323円
ダイワ・株/債券/コモディティ・バランスファンド	155,196,015円
ダイワ資産分散インカムオープン(奇数月決算型)	663,609,251円
ダイワ海外ソブリン・ファンド(1年決算型)	24,608,820円
四国アライアンス 地域創生ファンド(年1回決算型)	475,099,550円
四国アライアンス 地域創生ファンド(年2回決算型)	110,562,812円
計	9,446,769,758円
2. 期末日における受益権の総数	9,446,769,758口

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区分	2022年10月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

種 類	2022年10月11日 現在			
	契約額等 (円)	うち 1年超	時価 (円)	評価損益 (円)
市場取引以外の取引				
為替予約取引				
売 建	705,132,531	-	708,614,404	3,481,873
イギリス・ポンド	32,380,800	-	32,323,480	57,320
ポーランド・ズロチ	296,749,731	-	293,885,064	2,864,667
ユーロ	376,002,000	-	382,405,860	6,403,860
買 建	672,751,731	-	677,244,822	4,493,091
アメリカ・ドル	278,520,000	-	281,043,196	2,523,196
オーストラリア・ドル	97,482,000	-	95,628,826	1,853,174
ノルウェー・クローネ	296,749,731	-	300,572,800	3,823,069
合計	1,377,884,262	-	1,385,859,226	1,011,218

（注） 1. 時価の算定方法

(1) 期末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

期末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

期末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 期末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

- ・ 期末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 期末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、期末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。
3. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報)

	2022年10月11日現在
1口当たり純資産額	1.8036円
(1万口当たり純資産額)	(18,036円)

「ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	2022年10月11日現在
	金額(円)
資産の部	
流動資産	
預金	201,501,672
コール・ローン	554,754,447
国債証券	46,693,386,296
地方債証券	548,740,181
特殊債券	1,502,252,423
社債券	14,194,693,078
派生商品評価勘定	349,714,231
未収入金	1,679,330,307
未収利息	416,525,136
前払費用	10,622,918
差入委託証拠金	1,187,535,617
流動資産合計	67,339,056,306
資産合計	67,339,056,306
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	181,233,052

未払金		815,727,813
その他未払費用		5,940
流動負債合計		996,966,805
負債合計		996,966,805
純資産の部		
元本等		
元本	1	66,891,260,440
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	2	549,170,939
元本等合計		66,342,089,501
純資産合計		66,342,089,501
負債純資産合計		67,339,056,306

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2022年4月12日 至 2022年10月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券及び社債券</p> <p>個別法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(但し、売気配相場は使用しない)、又は価格情報会社の提供する価額等で評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>
2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法	<p>(1)先物取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として、計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場によっております。</p> <p>(2)為替予約取引</p>

<p>3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p>	<p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として計算日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。</p> <p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>
-----------------------------------	---

（貸借対照表に関する注記）

区 分	2022年10月11日現在
<p>1. 1 期首</p> <p>期首元本額</p> <p>期中追加設定元本額</p> <p>期中一部解約元本額</p> <p>期末元本額の内訳</p> <p>ファンド名</p> <p>ネオ・ヘッジ付債券ファンド （FOFs用）（適格機関投資家 専用）</p> <p>四国アライアンス 地域創生 ファンド（年1回決算型）</p> <p>四国アライアンス 地域創生 ファンド（年2回決算型）</p> <p>ワールド・アクティブ・ボン ド・オープン（為替ヘッジあ り）</p> <p>計</p> <p>2. 期末日における受益権の総数</p>	<p>2022年4月12日</p> <p>65,974,683,308円</p> <p>9,616,798,763円</p> <p>8,700,221,631円</p> <p>65,821,173,073円</p> <p>867,789,329円</p> <p>201,451,433円</p> <p>846,605円</p> <p>66,891,260,440円</p> <p>66,891,260,440円</p>

3. 2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は549,170,939円であります。
------------	---

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2022年10月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

1. 債券関連

種 類	2022年10月11日 現在			評価損益 (円)
	契約額等 (円)	うち 1年超	時価 (円)	
市場取引				
債券先物取引				
売 建	7,620,476,559	-	7,373,751,374	246,725,185
合計	7,620,476,559	-	7,373,751,374	246,725,185

（注） 1. 時価の算定方法

債券先物取引の時価については、以下のように評価しております。

原則として期末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、期末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2. 債券先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。

3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。また契約額等及び時価の邦貨換算は期末日の対顧客電信売買相場の仲値で行っております。
4. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

2. 通貨関連

種 類	2022年10月11日 現在			
	契約額等 (円)	うち 1年超	時価 (円)	評価損益 (円)
市場取引以外の取引				
為替予約取引				
売 建	66,040,103,644	-	66,118,347,650	78,244,006
アメリカ・ドル	28,891,581,516	-	28,988,284,720	96,703,204
イギリス・ポンド	2,696,142,910	-	2,708,368,700	12,225,790
オーストラリア・ドル	6,231,216,376	-	6,158,450,600	72,765,776
カナダ・ドル	589,157,128	-	590,632,000	1,474,872
スウェーデン・クローナ	2,903,881,112	-	2,918,296,000	14,414,888
ポーランド・ズロチ	507,370,220	-	506,133,250	1,236,970
メキシコ・ペソ	2,592,209,822	-	2,601,578,700	9,368,878
ユーロ	21,628,544,560	-	21,646,603,680	18,059,120
合計	66,040,103,644	-	66,118,347,650	78,244,006

(注) 1. 時価の算定方法

- (1) 期末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

期末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

期末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 期末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

- ・ 期末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 期末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、期末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。
3. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報)

	2022年10月11日現在
1口当たり純資産額	0.9918円
(1万口当たり純資産額)	(9,918円)

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

2022年10月31日

資産総額	3,597,174,104円
負債総額	4,218,302円
純資産総額（ - ）	3,592,955,802円
発行済数量	3,353,352,920口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.0715円

(参考) 四国応援マザーファンド

純資産額計算書

2022年10月31日

資産総額	1,086,218,181円
負債総額	50,000円
純資産総額（ - ）	1,086,168,181円
発行済数量	965,855,734口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.1246円

(参考) 地方創生ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用）

純資産額計算書

2022年10月31日

資産総額	1,105,525,433円
負債総額	612,326円
純資産総額（ - ）	1,104,913,107円
発行済数量	948,639,439口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.1647円

参考情報 地方創生マザーファンド

純資産額計算書

2022年10月31日

資産総額	2,553,935,796円
負債総額	29,830,099円
純資産総額(-)	2,524,105,697円
発行済数量	1,485,767,415口
1単位当たり純資産額(/)	1.6989円

(参考) ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド

純資産額計算書

2022年10月31日

資産総額	17,861,580,828円
負債総額	8,943,001円
純資産総額(-)	17,852,637,827円
発行済数量	9,387,235,057口
1単位当たり純資産額(/)	1.9018円

(参考) ネオ・ヘッジ付債券マザーファンド

純資産額計算書

2022年10月31日

資産総額	65,925,284,259円
負債総額	2,098,497,090円
純資産総額(-)	63,826,787,169円
発行済数量	63,950,575,679口
1単位当たり純資産額(/)	0.9981円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 名義書換えの手続き等
該当事項はありません。

(2) 受益者に対する特典
ありません。

(3) 譲渡制限の内容
譲渡制限はありません。

(4) 受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

(5) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(6) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(7) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

受益権の再分割を行なうにあたり、各受益者が保有する受益権口数に1口未満の端数が生じることとなる場合には、当該端数を切り捨てるものとし、当該端数処理は口座管理機関ごとに行ないます。また、各受益者が保有することとなる受益権口数の合計数と、受益権の再分割の比率に基づき委託会社が計算する受益権口数の合計数との間に差が生じることとなる場合には、委託会社が計算する受益権口数を当該差分減らし、当該口数にかかる金額については益金として計上することとします。

(8) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、ます。）に支払います。

(9) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1 【委託会社等の概況】

a. 資本金の額

2022年10月末日現在

資本金の額 151億7,427万2,500円

発行可能株式総数 799万9,980株

発行済株式総数 260万8,525株

過去5年間ににおける資本金の額の増減：該当事項はありません。

b. 委託会社の機構

会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。取締役は、株主総会において選任され、その任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでです。

取締役会は、4名以内の代表取締役を選定し、代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、取締役、執行役員等から構成される経営会議は、経営全般にかかる基本的事項を審議し、決定します。経営会議は、分科会を設置し、専門的な事項についてはその権限を委ねることができます。

投資運用の意思決定機構

投資運用の意思決定機構の概要は、以下のとおりとなっています。

イ. 商品会議

ファンド設立時に経営会議の分科会である商品会議を開催し、ファンドの新規設定を決定します。

ロ. 商品担当役員

商品担当役員は、ファンド設立の趣旨に沿って、各ファンド運営上の諸方針を記載した基本計画書を決定します。

ハ. 運用会議

CIOが議長となり、原則として月1回運用会議を開催し、基本的な運用方針を決定します。

ニ. 運用部長・ファンドマネージャー

ファンドマネージャーは、基本計画書に定められた各ファンドの諸方針と運用会議で決定された基本的な運用方針にしたがって運用計画書を作成します。運用部長は、ファンドマネージャーから提示を受けた運用計画書について、基本計画書および運用会議の決定事項との整合性等を確認し、承認します。

ホ. リスクマネジメント会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用リスクの状況・運用リスク管理等の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

2 【事業の内容及び営業の概況】

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行なうとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行なっています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務等の関連する業務を行なっています。

2022年10月末日現在、委託会社が運用を行なっている投資信託（親投資信託を除きます。）は次のとおりです。

基本的性格	本数（本）	純資産額の合計額（百万円）
単位型株式投資信託	81	279,527
追加型株式投資信託	767	21,052,393
株式投資信託 合計	848	21,331,920
単位型公社債投資信託	86	163,103
追加型公社債投資信託	14	1,376,608
公社債投資信託 合計	100	1,539,711
総合計	948	22,871,631

3【委託会社等の経理状況】

1．当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

2．当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第63期事業年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の財務諸表についての監査を、有限責任 あずさ監査法人により受けております。

また、第64期事業年度に係る中間会計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により中間監査を受けております。

3．財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(1)【貸借対照表】

(単位:百万円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	4,860	3,168
有価証券	333	486
前払費用	237	332
未収委託者報酬	13,150	13,811
未収収益	49	52
関係会社短期貸付金	18,700	24,900
その他	207	45
流動資産計	37,539	42,799
固定資産		
有形固定資産	1	203
建物	6	4

器具備品	218	198
無形固定資産	1,937	1,770
ソフトウェア	1,882	1,738
ソフトウェア仮勘定	54	31
投資その他の資産	16,121	16,617
投資有価証券	10,159	10,755
関係会社株式	3,705	3,705
出資金	183	177
長期差入保証金	1,068	1,067
繰延税金資産	973	885
その他	30	26
固定資産計	18,283	18,591
資産合計	55,822	61,390

(単位:百万円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	68	65
未払金	8,405	9,856
未払収益分配金	13	26
未払償還金	39	12
未払手数料	4,734	4,917
その他未払金	2	4,900
未払費用	3,777	4,246
未払法人税等	804	980
未払消費税等	631	1,016
賞与引当金	950	866
その他	88	2
流動負債計	14,725	17,033
固定負債		
退職給付引当金	2,452	2,399
役員退職慰労引当金	74	13
その他	3	1
固定負債計	2,530	2,415
負債合計	17,256	19,449
純資産の部		

株主資本		
資本金	15,174	15,174
資本剰余金		
資本準備金	11,495	11,495
資本剰余金合計	11,495	11,495
利益剰余金		
利益準備金	374	374
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	10,574	13,925
利益剰余金合計	10,948	14,299
株主資本合計	37,618	40,969
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	947	971
評価・換算差額等合計	947	971
純資産合計	38,566	41,941
負債・純資産合計	55,822	61,390

(2) 【損益計算書】

(単位:百万円)

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	65,487	74,402
その他営業収益	419	545
営業収益計	65,906	74,948
営業費用		
支払手数料	27,965	31,234
広告宣伝費	624	650
調査費	8,245	9,104
調査費	1,134	1,252
委託調査費	7,110	7,851
委託計算費	1,501	1,729
営業雑経費	1,870	2,051
通信費	240	189
印刷費	478	468
協会費	51	46
諸会費	14	15
その他営業雑経費	1,084	1,331
営業費用計	40,207	44,768

一般管理費		
給料	5,991	5,948
役員報酬	351	306
給料・手当	4,293	4,281
賞与	395	493
賞与引当金繰入額	950	866
福利厚生費	893	867
交際費	32	46
旅費交通費	37	48
租税公課	472	527
不動産賃借料	1,302	1,300
退職給付費用	449	408
役員退職慰労引当金繰入額	28	10
固定資産減価償却費	661	606
諸経費	1,763	1,864
一般管理費計	11,631	11,628
営業利益	14,067	18,551

(単位:百万円)

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
営業外収益		
投資有価証券売却益	578	327
有価証券償還益	42	40
その他	68	264
営業外収益計	689	631
営業外費用		
投資有価証券売却損	69	59
有価証券償還損	47	0
その他	24	34
営業外費用計	141	93
経常利益	14,616	19,089
特別損失		
システム刷新関連費用	547	-
関係会社整理損失	267	-
投資有価証券評価損	45	331
特別損失計	860	331
税引前当期純利益	13,756	18,757
法人税、住民税及び事業税	4,476	5,950
法人税等調整額	109	69

法人税等合計	4,366	6,019
当期純利益	9,389	12,738

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					株主資本 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		利益剰余金 合計	
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰余金		
当期首残高	15,174	11,495	374	11,749	12,123	38,793
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	△ 10,564	△ 10,564	△ 10,564
当期純利益	-	-	-	9,389	9,389	9,389
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	△ 1,175	△ 1,175	△ 1,175
当期末残高	15,174	11,495	374	10,574	10,948	37,618

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△ 363	△ 363	38,430
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	△ 10,564
当期純利益	-	-	9,389
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	1,311	1,311	1,311
当期変動額合計	1,311	1,311	136
当期末残高	947	947	38,566

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	15,174	11,495	374	10,574	10,948	37,618
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	△ 9,388	△ 9,388	△ 9,388
当期純利益	-	-	-	12,738	12,738	12,738
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	3,350	3,350	3,350
当期末残高	15,174	11,495	374	13,925	14,299	40,969

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	947	947	38,566
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	△ 9,388
当期純利益	-	-	12,738
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	24	24	24
当期変動額合計	24	24	3,374
当期末残高	971	971	41,941

注記事項

（重要な会計方針）

1．有価証券の評価基準及び評価方法

（1）子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法により計上しております。

（2）その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物 10～18年

器具備品 4～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年間）に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて事業年度ごとに各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与及び上席参事についても、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

当社は証券投資信託の信託約款に基づき、証券投資信託の運用について履行義務を負っております。委託者報酬は、日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当社が日々サービスを提供する時に当該履行義務が充足されるため、証券投資信託の運用期間にわたり収益を認識しております。

5. その他財務諸表作成のための基礎となる事項

(1) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(2) 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社は、翌事業年度から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行することとなります。ただし、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

なお、翌事業年度の期首から、グループ通算制度を適用する場合における法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示の取扱いを定めた「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）を適用する予定であります。

(重要な会計上の見積り)

該当事項はありません。

（会計方針の変更に関する注記）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これによる当事業年度の損益及び期首利益剰余金に与える影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

（未適用の会計基準等）

- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）

(1) 概要

投資信託の時価の算定及び注記に関する取扱い並びに貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合等への出資の時価の注記に関する取扱いが定められました。

(2) 適用予定日

2023年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」の適用による財務諸表に与える影響については、現時点で評価中であります。

（貸借対照表関係）

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
建物	35百万円	37百万円
器具備品	259百万円	283百万円

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
未払金	3,473百万円	4,694百万円

3 保証債務

前事業年度（2021年3月31日）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,727百万円に対して保証を行っております。

当事業年度（2022年3月31日）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,900百万円に対して保証を行っております。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合計	2,608	-	-	2,608

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	剰余金の配当の 総額（百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2020年6月23日 定時株主総会	普通株式	10,564	4,050	2020年 3月31日	2020年 6月24日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2021年6月22日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

剰余金の配当の総額	9,388百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	3,599円
基準日	2021年3月31日
効力発生日	2021年6月23日

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合計	2,608	-	-	2,608

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	剰余金の配当の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月22日 定時株主総会	普通株式	9,388	3,599	2021年 3月31日	2021年 6月23日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2022年6月23日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

剰余金の配当の総額	12,737百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	4,883円
基準日	2022年3月31日
効力発生日	2022年6月24日

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用に関する事業を行っております。資金運用については安全性の高い金融商品に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

証券投資信託に係る運用報酬の未決済額である未収委託者報酬は、運用するファンドの財産が信託されており、「投資信託及び投資法人に関する法律」、その他関係法令等により一定の制限が設けられているためリスクは極めて軽微であります。有価証券及び投資有価証券は、証券投資信託、株式であります。証券投資信託は事業推進目的で保有しており、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。株式は上場株式、非上場株式、子会社株式並びに関連会社株式を保有しており、上場株式は価格変動リスク及び発行体の信用リスクに、非上場株式、子会社株式及び関連会社株式は発行体の信用リスクに晒されております。関係会社短期貸付金は、親会社に対して貸付を行っているものであります。

未払手数料は証券投資信託の販売に係る代行手数料の未払額であります。その他未払金は主に連結納税の親会社へ支払う法人税の未払額であります。未払費用は主にファンド運用に係る業務を委託したこと等により発生する費用の未払額であります。これらは、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

市場リスクの管理

() 為替変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに為替変動リスク管理の検討を行っております。

() 価格変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに価格変動リスク管理の検討を行っており、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

信用リスクの管理

発行体の信用リスクは財務リスク管理規程に従い、定期的に財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

2. 金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項

貸借対照表計上額、時価並びにレベルごとの内訳等については、次のとおりであります。なお、2019年7月4日公表の企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（以下、「2019年適用指針」という。）第26項に従い経過措置を適用した有価証券、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません。

また、金融商品の時価は、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

前事業年度（2021年3月31日）

（1）時価をもって貸借対照表価額とする金融資産及び金融負債

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券（1）	85	-	-	85
資産合計	85	-	-	85

（1）2019年適用指針第26項に従い経過措置を適用し、有価証券333百万円、投資有価証券9,406百万円は上記の表に含めておりません。

（2）時価をもって貸借対照表価額としない金融資産及び金融負債

現金・預金、未収委託者報酬、コマースナル・ペーパー、未払金及び未払費用は、短期間（1年以内）で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

当事業年度（2022年3月31日）

（1）時価をもって貸借対照表価額とする金融資産及び金融負債

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券（1）	66	-	-	66
資産合計	66	-	-	66

（1）2019年適用指針第26項に従い経過措置を適用し、有価証券486百万円、投資有価証券10,022百万円は上記の表に含めておりません。

（2）時価をもって貸借対照表価額としない金融資産及び金融負債

現金・預金、未収委託者報酬、関係会社短期貸付金、未払金及び未払費用は、短期間（１年以内）で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

（注１）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

株式は活発な市場における無調整の相場価格を利用できることから、その時価をレベル１に分類しております。なお、2019年適用指針第26項に従い経過措置を適用している有価証券は、公表されている基準価額によっていることからレベルを付しておりません。保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

（注２）市場価格のない株式等の貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している表中の投資有価証券には含めておりません。

（単位：百万円）

区分	前事業年度	当事業年度
非上場株式等	666	666
子会社株式	1,677	1,677
関連会社株式	2,027	2,027

（有価証券関係）

１．子会社株式及び関連会社株式

前事業年度（2021年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 1,677百万円）及び関連会社株式（貸借対照表計上額 2,027百万円）は、市場価格がないことから、記載しておりません。

当事業年度（2022年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 1,677百万円）及び関連会社株式（貸借対照表計上額 2,027百万円）は、市場価格がないことから、記載しておりません。

２．その他有価証券

前事業年度（2021年3月31日）

	貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
（１）株式	85	55	30
（２）その他	7,179	5,697	1,481
小計	7,265	5,752	1,512
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他	2,561	2,721	160
小計	2,561	2,721	160
合計	9,826	8,474	1,352

(注)非上場株式(貸借対照表計上額 666百万円)については、市場価格がないことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(2022年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1)株式	66	55	11
(2)その他	6,755	4,917	1,838
小計	6,822	4,972	1,850
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他	3,753	4,208	454
小計	3,753	4,208	454
合計	10,575	9,180	1,395

(注)非上場株式(貸借対照表計上額 666百万円)については、市場価格がないことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 売却したその他有価証券

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1)株式	-	-	-
(2)その他 証券投資信託	5,353	578	69
合計	5,353	578	69

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1)株式	-	-	-
(2)その他 証券投資信託	1,719	327	59
合計	1,719	327	59

4. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、関係会社株式について267百万円、証券投資信託について45百万円の減損処理を行っております。

当事業年度において、証券投資信託について331百万円の減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、非積立型の確定給付制度(退職一時金制度であります)及び確定拠出制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度		当事業年度	
	(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)		(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
退職給付債務の期首残高	2,574	百万円	2,452	百万円
勤務費用	155		152	
退職給付の支払額	378		303	
その他	101		98	
退職給付債務の期末残高	2,452		2,399	

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度		当事業年度	
	(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)		(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
非積立型制度の退職給付債務	2,452	百万円	2,399	百万円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,452		2,399	
退職給付引当金	2,452		2,399	
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,452		2,399	

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度		当事業年度	
	(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)		(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
勤務費用	155	百万円	152	百万円
その他	108		67	
確定給付制度に係る退職給付費用	263		219	

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度186百万円、当事業年度189百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

(単位：百万円)

	前事業年度		当事業年度	
	(2021年3月31日)		(2022年3月31日)	
繰延税金資産				
退職給付引当金	750		734	
賞与引当金	243		227	

未払事業税	170	213
投資有価証券評価損	128	144
システム関連費用	155	111
出資金評価損	94	94
その他	298	437
繰延税金資産小計	1,841	1,963
評価性引当額	254	356
繰延税金資産合計	1,586	1,607
繰延税金負債		
連結法人間取引（譲渡益）	159	159
その他有価証券評価差額金	453	562
繰延税金負債合計	612	722
繰延税金資産の純額	973	885

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度（2021年3月31日）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

当事業年度（2022年3月31日）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

（収益認識関係）

（1）顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、証券投資信託に関する運用その他の業務を行っております。営業収益の内訳は、証券投資信託に関する運用に係る業務が74,402百万円、その他545百万円であります。

（2）収益を理解するための基礎となる情報

（重要な会計方針）の4.収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

（3）顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から当事業年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

[関連情報]

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

内国籍証券投資信託又は本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

属性	会社等の名称	住所	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	㈱大和証券グループ本社	東京都千代田区	247,397	証券持株会社業	被所有 100.0	あり	経営管理	資金の貸付 利息の受取 (注)	19,300 0	関係会社短期貸付金 -	18,700 -

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 貸付利息については市場金利を勘案して合理的に決定し、返済期間は1年以内としております。なお、担保は受け入れておりません。

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

属性	会社等の名称	住所	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	㈱大和証券グループ本社	東京都千代田区	247,397	証券持株会社業	被所有 100.0	あり	経営管理	資金の貸付 利息の受取 (注)	19,000 0	関係会社短期貸付金 受取利息関係会社	24,900 0

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 貸付利息については市場金利を勘案して合理的に決定し、返済期間は1年以内としております。なお、担保は受け入れておりません。

(イ) 財務諸表提出会社の子会社

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Daiwa Asset Management (Singapore)Ltd.	Singapore	133	金融商品取引業	所有 直接100.0	経営管理	債務保証 (注)	1,727	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁(MAS)に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行、及びMASへの全ての損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定めるとおりに決定しております。

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Daiwa Asset Management (Singapore)Ltd.	Singapore	133	金融商品取引業	所有 直接100.0	経営管理	債務保証 (注)	1,900	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁(MAS)に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行、及びMASへの全ての損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定めるとおりに決定しております。

(ウ) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

属性	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社をもつ会社	大和証券(株)	東京都千代田区	100,000	金融商品取引業	-	証券投資信託受益証券の募集販売 本社ビルの管理	証券投資信託の代行手数料(注2)	14,917	未払手数料	3,321
							不動産の賃借料(注4)	527	長期差入保証金	1,054
同一の親会社をもつ会社	(株)大和総研ビジネス・イノベーション	東京都江東区	3,000	情報サービス業	-	ソフトウェアの開発	ソフトウェアの購入(注3)	883	未払費用	179
同一の親会社をもつ会社	大和プロパティ(株)	東京都中央区	100	不動産管理業	-	本社ビルの管理	不動産の賃借料(注4)	527	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2) 証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3) ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

(注4) 差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し、交渉の上、決定しております。

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

属性	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
----	--------	-----	-------------------	-------	-----------------------	-----------	-------	---------------	----	---------------

同一の親会社をもつ会社	大和証券(株)	東京都千代田区	100,000	金融商品取引業	-	証券投資信託受益証券の募集販売 本社ビルの管理	証券投資信託の代行手数料(注2) 不動産の賃借料(注3)	15,348 1,062	未払手数料 長期差入保証金	3,028 1,054
同一の親会社をもつ会社	(株)大和総研	東京都江東区	3,898	情報サービス業	-	ソフトウェアの開発・保守	ソフトウェアの購入・保守(注4)	1,065	未払費用	91

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2) 証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3) 差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し交渉の上、決定しております。

(注4) ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社大和証券グループ本社(東京証券取引所、名古屋証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)		当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
1株当たり純資産額	14,784.79円	1株当たり純資産額	16,078.50円
1株当たり当期純利益	3,599.54円	1株当たり当期純利益	4,883.43円

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注2) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
当期純利益(百万円)	9,389	12,738
普通株式の期中平均株式数(株)	2,608,525	2,608,525

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位:百万円)

		当中間会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金		3,876
有価証券		498
未収委託者報酬		12,633
関係会社短期貸付金		16,600
その他		557
流動資産合計		34,165
固定資産		
有形固定資産	1	196
無形固定資産		
ソフトウェア		1,443
その他		141
無形固定資産合計		1,584
投資その他の資産		
投資有価証券		7,533
関係会社株式		3,482
繰延税金資産		887
その他		1,267
投資その他の資産合計		13,170
固定資産合計		14,950
資産合計		49,116

(単位:百万円)

		当中間会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
未払金		5,646

未払費用	4,193
未払法人税等	1,623
賞与引当金	486
その他	2 655
流動負債合計	12,605
固定負債	
退職給付引当金	2,344
役員退職慰労引当金	33
その他	1
固定負債合計	2,379
負債合計	14,984
純資産の部	
株主資本	
資本金	15,174
資本剰余金	
資本準備金	11,495
資本剰余金合計	11,495
利益剰余金	
利益準備金	374
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	6,692
利益剰余金合計	7,067
株主資本合計	33,737
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	394
評価・換算差額等合計	394
純資産合計	34,131
負債・純資産合計	49,116

(2) 中間損益計算書

(単位:百万円)

	当中間会計期間
	(自 2022年4月1日
	至 2022年9月30日)
営業収益	
委託者報酬	35,926
その他営業収益	281

営業収益合計		36,208
営業費用		
支払手数料		15,088
その他営業費用		6,970
営業費用合計		22,059
一般管理費	1	5,766
営業利益		8,382
営業外収益	2	579
営業外費用	3	274
経常利益		8,686
特別利益		-
特別損失	4	460
税引前中間純利益		8,226
法人税、住民税及び事業税		2,472
法人税等調整額		248
中間純利益		5,505

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

（単位：百万円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金 利益準備金	利益剰余金		株主資本合計
				その他利益 剰余金	利益剰余金 合計	
				繰越利益 剰余金		
当期首残高	15,174	11,495	374	13,925	14,299	40,969
当中間期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	12,737	12,737	12,737
中間純利益	-	-	-	5,505	5,505	5,505
株主資本以外の 項目の当中間期 変動額（純額）	-	-	-	-	-	-
当中間期変動額合計	-	-	-	7,232	7,232	7,232
当中間期末残高	15,174	11,495	374	6,692	7,067	33,737

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	971	971	41,941
当中間期変動額			
剰余金の配当	-	-	12,737
中間純利益	-	-	5,505
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	576	576	576
当中間期変動額合計	576	576	7,809
当中間期末残高	394	394	34,131

注記事項

（重要な会計方針）

1．有価証券の評価基準及び評価方法

（1）子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法により計上しております。

（2）その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	10～18年
器具備品	4～20年

（2）無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年間）に基づく定額法によっております。

3．引当金の計上基準

（1）賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて事業年度ごとに各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与及び上席参事についても、当社の退職金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりであります。

当社は証券投資信託の信託約款に基づき、証券投資信託の運用について履行義務を負っております。委託者報酬は、日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当社が日々サービスを提供する時に当該履行義務が充足されるため、証券投資信託の運用期間にわたり収益を認識しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。この変更による当中間財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社は、当中間会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(中間貸借対照表関係)

1 減価償却累計額

	当中間会計期間 (2022年9月30日現在)
有形固定資産	326百万円

2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他」に含めて表示しております。

3 保証債務

当中間会計期間(2022年9月30日現在)

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務2,122百万円に対して保証を行っております。

(中間損益計算書関係)

1 減価償却実施額

	当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
有形固定資産	11百万円
無形固定資産	302百万円

2 営業外収益の主要項目

	当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
投資有価証券売却益	268百万円
有価証券償還益	149百万円
為替差益	114百万円

3 営業外費用の主要項目

	当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
投資有価証券売却損	244百万円

4 特別損失の項目

	当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
投資有価証券評価損	237百万円
関係会社整理損失	222百万円

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	当事業年度期首 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合計	2,608	-	-	2,608

2. 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	12,737	4,883	2022年3月31日	2022年6月24日

(金融商品関係)

当中間会計期間(2022年9月30日)

金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額並びにレベルごとの内訳等については、次のとおりであります。また、金融商品の時価は、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって中間貸借対照表価額とする金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

	中間貸借対照表計上額			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券	57	7,306	-	7,364
資産合計	57	7,306	-	7,364

(2) 時価をもって中間貸借対照表価額としない金融資産及び金融負債

現金・預金、未収委託者報酬、短期貸付金、未払金及び未払費用は、短期間（1年以内）で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

（注1）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

株式は活発な市場における無調整の相場価格を利用できることから、その時価をレベル1に分類しております。当社が保有している証券投資信託は基準価額を用いて評価しており、当該基準価額は活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2に分類しております。保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

（注2）市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している表中の投資有価証券には含めておりません。

（単位：百万円）

区分	当中間会計期間
非上場株式等	666
子会社株式	1,454
関連会社株式	2,027

（有価証券関係）

当中間会計期間（2022年9月30日）

1．子会社株式及び関連会社株式

子会社株式（中間貸借対照表計上額 1,454百万円）及び関連会社株式（中間貸借対照表計上額 2,027百万円）は、市場価格がないことから、記載しておりません。

2．その他有価証券

	中間貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
（1）株式	57	55	2
（2）その他	4,614	3,570	1,043
小計	4,671	3,625	1,046
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他	2,692	3,171	478
小計	2,692	3,171	478
合計	7,364	6,797	567

（注）非上場株式（中間貸借対照表計上額 666百万円）については、市場価格がないことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

（収益認識関係）

（１）顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、証券投資信託に関する運用その他の業務を行っております。営業収益の内訳は、証券投資信託に関する運用に係る業務が35,926百万円、その他281百万円であります。

（２）収益を理解するための基礎となる情報

（重要な会計方針）の４．収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

（３）顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並び

に当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

[関連情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1.サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

（１）営業収益

内国籍証券投資信託又は本邦顧客からの営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（２）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3.主要な顧客ごとの情報

営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
1株当たり純資産額	13,084.78円
1株当たり中間純利益	2,110.46円

(注1) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注2) 1株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下の通りであります。

当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
中間純利益(百万円)	5,505
普通株式に係る中間純利益(百万円)	5,505
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-
普通株式の期中平均株式数(株)	2,608,525

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行なうこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

a. 定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項

2022年4月1日付で、定款について次の変更を致しました。

- ・ 監査役の人数の変更（4名以内から5名以内に変更）

b. 訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実

訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

	名 称	資本金の額 (2022年03月末日現在)	事業の内容	備考
受託会社	三井住友信託銀行株式会社	342,037百万円	(注6)	
再信託受託会社	株式会社日本カスト ディ銀行	51,000百万円	(注6)	
販売会社	四国アライアンス証券 株式会社	3,000百万円	(注1)	
	野村證券株式会社	10,000百万円	(注1)	
	株式会社阿波銀行	23,452百万円	(注3)	
	株式会社伊予銀行	20,948百万円	(注3)	
	株式会社四国銀行	25,000百万円	(注3)	
	株式会社百十四銀行	37,322百万円	(注3)	

(注1) 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

(注2) 主として中小企業向け融資業を営んでいます。

(注3) 銀行法に基づき銀行業を営んでいます。

(注4) 全国の信用金庫の中央金融機関として、信用金庫の余裕資金の効率運用と信用金庫間の資金の需給調整、信用金庫業界の信用力の維持向上および業務機能の補完を図っています。

(注5) 協同組合による金融事業に関する法律に基づき金融事業を営んでいます。

(注6) 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(注7) 信用金庫法に基づく金融業を営んでいます。

(注8) 保険業法に基づき損害保険業を営んでいます。

(注9) 保険業法に基づき生命保険業を営んでいます。

(注10) 全国の農業協同組合、漁業協同組合、森林組合などの協同組織の全国金融機関として、余裕資金の効率運用と資金の需給調整、当該協同組織の信用力の維持向上及び業務機能の補完を図っています。

(注11) 労働金庫連合会は、労働金庫法に基づき設立された労働金庫の系統中央金融機関です。

(注12) 農業協同組合法に基づき信用事業等を営んでいます。

2【関係業務の概要】

受託会社は、信託契約の受託者であり、委託会社の指図に基づく信託財産の管理・処分、信託財産の計算等を行ないます。なお、外国における資産の保管は、その業務を行なうに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行なう場合があります。

再信託受託会社は、受託会社と再信託契約を締結し、信託事務の一部（信託財産の管理等）を行ないます。

販売会社は、受益権の募集の取扱い、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金・償還金・一部解約金の支払いに関する事務等を行ないます。

3【資本関係】

該当事項はありません。

第3【その他】

(1) 目論見書の表紙から本文の前までの記載等について

- ・ 金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第13条の規定に基づく目論見書である旨を記載することがあります。
 - ・ 目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」という名称を用いることがあります。
 - ・ 委託会社等の情報、受託会社に関する情報を記載することがあります。
 - ・ 詳細な情報の入手方法として、以下の事項を記載することがあります。
 - 委託会社のホームページアドレス、電話番号及び受付時間等
 - 請求目論見書の入手方法及び投資信託約款が請求目論見書に掲載されている旨
 - ・ 使用開始日を記載することがあります。
 - ・ 届出の効力に関する事項について、次に掲げるいずれかの内容を記載することがあります。
 - 届出をした日及び当該届出の効力の発生の有無を確認する方法
 - 届出をした日、届出が効力を生じている旨及び効力発生日
 - ・ 次の事項を記載することがあります。
 - 投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - 請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨及び当該請求を行った場合にはその旨の記録をしておくべきである旨
 - 「ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。」との趣旨を示す記載
 - ・ 委託会社、当ファンドのロゴ・マーク等を記載することがあります。
 - ・ ファンドの形態等を記載することがあります。
 - ・ 図案を採用することがあります。
 - ・ ファンドの管理番号等を記載することがあります。
 - ・ 委託会社のインターネットホームページのアドレスに加え、他のインターネットのアドレス（当該アドレスをコード化した図形等も含みます。）を掲載することがあります。
 - ・ UD FONT マークおよび説明文を記載することがあります。
- (2) 当ファンドは、評価機関等の評価を取得、使用する場合があります。
- (3) 交付目論見書に最新の運用実績を記載することがあります。
- (4) 請求目論見書に当ファンドの投資信託約款の全文を記載します。
- (5) 交付目論見書に「投資家のみなさまへ」として、以下の内容を記載することがあります。

投資家のみなさまへ

私どもは、四国を中心に活躍する企業をはじめ、地方創生に資する企業と海外の債券に投資する、ファンドを提供させていただいております。

投資を通じて四国を含む地域の活性化を応援し地域の成長を享受しながら、海外の債券を組み合わせることで安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざします。

お手持ちの資金を預貯金のほか、さまざまな資産に投資することをお考えのお客さまや、将来に備えた資産づくりのために積立投資などをお考えのお客さまの運用商品のひとつとしてふさわしいと考えております。

長期投資をお考えのお客さまの資産運用、資産形成の一助となれば幸いです。

独立監査人の監査報告書

2022年5月23日

大和アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員	公認会計士	間瀬	友未
業務執行社員			
指定有限責任社員	公認会計士	深井	康治
業務執行社員			

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和アセットマネジメント株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第63期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和アセットマネジメント株式会社の2022年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2022年6月3日

大和アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 深井 康治指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹内 知明**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている四国アライアンス 地域創生ファンド（年1回決算型）の2021年4月13日から2022年4月11日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、四国アライアンス 地域創生ファンド（年1回決算型）の2022年4月11日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、大和アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか

か検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

大和アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年11月28日

大和アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	間瀬 友未
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	深井 康治

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和アセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第64期事業年度の中間会計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和アセットマネジメント株式会社の2022年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年12月2日

大和アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	深井 康治
--------------------	-------	-------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	竹内 知明
--------------------	-------	-------

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている四国アライアンス 地域創生ファンド（年1回決算型）の2022年4月12日から2022年10月11日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、四国アライアンス 地域創生ファンド（年1回決算型）の2022年10月11日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2022年4月12日から2022年10月11日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、大和アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

大和アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。